

令和2年度
社会福祉法人 やおき福祉会
事業報告書

<目次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～12
② やおき工房	13～20
③ ゆうあいホーム（白浜町・上富田町含む）	21～24
④ 訪問介護支援センター	25～26
⑤ 陽だまり	27～31
⑥ ハモニティー	32～35
⑦ 紀南障害者就業・生活支援センター	36～40
⑧ 紀南地域活動支援センター	41～43
⑨ サンヒルズ（みなべ町含む）	44～46
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・本宮くまのこ作業所	47～53
⑪ こどうの家、第2こどうの家	54～56
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所、柳瀬出張所	57～61
(上富田町)	
⑬ かしのき	62～64
(白浜町)	
⑭ かへむ	65～69
(みなべ町)	
⑮ すまいる	70～75
(すさみ町)	
⑯ いなづみ作業所	76～80

令和2年度 法人事業報告（案）

令和2年度の事業計画・法人基本方針に沿って以下の点について取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

社会福祉法人として、利用者のエンパワメントを大事にしながら、虐待防止法や差別解消法等を遵守するとともに、各事業の特性を生かした支援を総合的に行った。

① 地域から様々な相談を受け、市町と連携した委託相談、サービス等利用計画作成における相談支援等を通して、円滑な地域生活を送るために必要な支援を行うとともに、地域相談支援体制の向上に向け、行政と連携して取り組んだ。

② グループホームについては、ゆうあいホーム再編後の円滑な運営を確保し、合理的な運営をすすめた。サンヒルズの整備については旧クローバーホーム跡地の今後の活用について協議をすすめ、ハモニティの作業棟拡張に繋いだ。南紀の台物件については購入後の懸案となっていたが有効利用について協議をすすめ、新たな居住課題に対応するための新規グループホーム建築に向け準備を整え国庫助成を得て、令和2年3月に建築に着手した。ほぼ1年の工期を経て令和3年2月に引渡し後、4月よりゆうあいホームの従たる事業所「なないろ」として7名定員で運営を開始した。

③ 一般就労については、紀南障害者就業・生活支援センターの年間目標数値20名以上を果たすと同時に、就労定着を重視した支援を行った。就労系事業所ではB型事業所の工賃アップを目標とした授産努力を連携で行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのレベルアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。

④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに、集団活動・交流を目的としたレクリエーションや旅行、地域のイベントなどの参加等、楽しめる機会の確保に積極的に取り組んだ。

⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間での情報共有を図り、密な連携を行うことで、事業所同士が相互に高まっていけるよう取り組んだ。

⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行うことで、利用者の希望を聞く機会を確保して支

援を行った。

⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについては法人各事業所において意識的に実施するとともに、下半期より2ヶ月に1回、苦情相談委員会を開催する等、個別の案件をくみ取りながら人権意識の向上に取り組んだ。なお、年1回、県が実施する「虐待防止研修」に関しては、新型コロナウイルスの感染予防対策のため参加を見合わせ法人独自の研修を行った。

4月、訪問介護支援センター事務所の移転。

5月より、上富田町より委託を受け地域活動支援センター「かしのき」を地域活動支援センターⅢ型事業として運営を開始した。

⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援を考えるとともに、必要に応じ、高齢資源との連携を図ってきた。その他、「居住支援法人事業」において高齢者を含めた「住まい確保」の問題について、法人内を始め行政や地域資源と課題共有を行った。

2. 財務運営

令和2年度は、健全な財務運営を継続しつつ、近い将来に直面するであろう郡部の利用者減少や高齢化・他事業所との競合に備えるための施設整備を昨年度に引き続き実施した。

具体的にはB型事業所ハモニティーの新棟設置計画を推進させた。建設そのものは諸事情により次年度に繰り越したが、建設予定地の更地造成と建設資金借入に関する協議を行った。また、「新社会福祉法人制度」のもとでの財務運営も定着し、「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、本年度も対象とはならない運営を行うことができた。

① 毎月、法人全体の充実財産試算表を作成し、計画性を持った運営を行った。

② 資産の有効活用については、利用者支援や給与規程の改定などを通して質の向上に期するとともに、将来を見据えたバランスに配慮した活用をすすめた。

③ 建物及び設備への計画的な投資については、現在の利用者支援ニーズを踏まえて、ハモニティーの授産拡張や新たな居住ニーズに備えたホーム建設、安全確保のための車輛購入等に投資を行った。

④ 職員の安定雇用を目的として本年度も定期昇給を実施した。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、本年度も離職に伴

う適時の採用に困難な側面があり、取り分け旧市外の事業所において顕著だった。

「働き方改革」については有給休暇の取得等、法人各事業所において推奨しながら、国の基準に沿った取得を促進した。

その他、在職中の人材育成の取り組みとしてはコロナ禍の影響により主任研修、法人研修部による各種の研修は中止とした。

- ① 人事ヒアリングについては昨年度より質の向上を図り個別に実施した。
- ② 法令に定められている虐待防止研修、人権擁護研修、安全・災害対策研修については、それに類する取り組みは独自に実施したが、新型コロナウイルス対策等の影響から、不特定多数の集まる研修参加は自粛とした。他の研修においても全般的に自粛傾向となり、十分な研修の実施には至らなかった。
- ③ 主任研修は、コロナ禍により未実施。
- ④ その他については、新人職員研修を実施（少数のため）。研修部主催研修はコロナ禍で未実施、各事業所毎での必要な研修については感染予防を徹底した上で少数にて実施した。また、法人内での必要な会議等についてはWEB会議を実施した。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

法令・制度を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行った。他の株式会社や特定非営利法人にはない連携や地域交流を図り「給付」の対象とならない活動も積極的に行った。

その他、法人内に「居住支援部」を設置し、地域全体の課題となっている障害者や高齢者等の住まい問題、空き家・空き室問題を改善することを目的とした「居住支援事業」を実施し、居住相談を行いながら課題解決に向けて取り組んだ。

6. その他

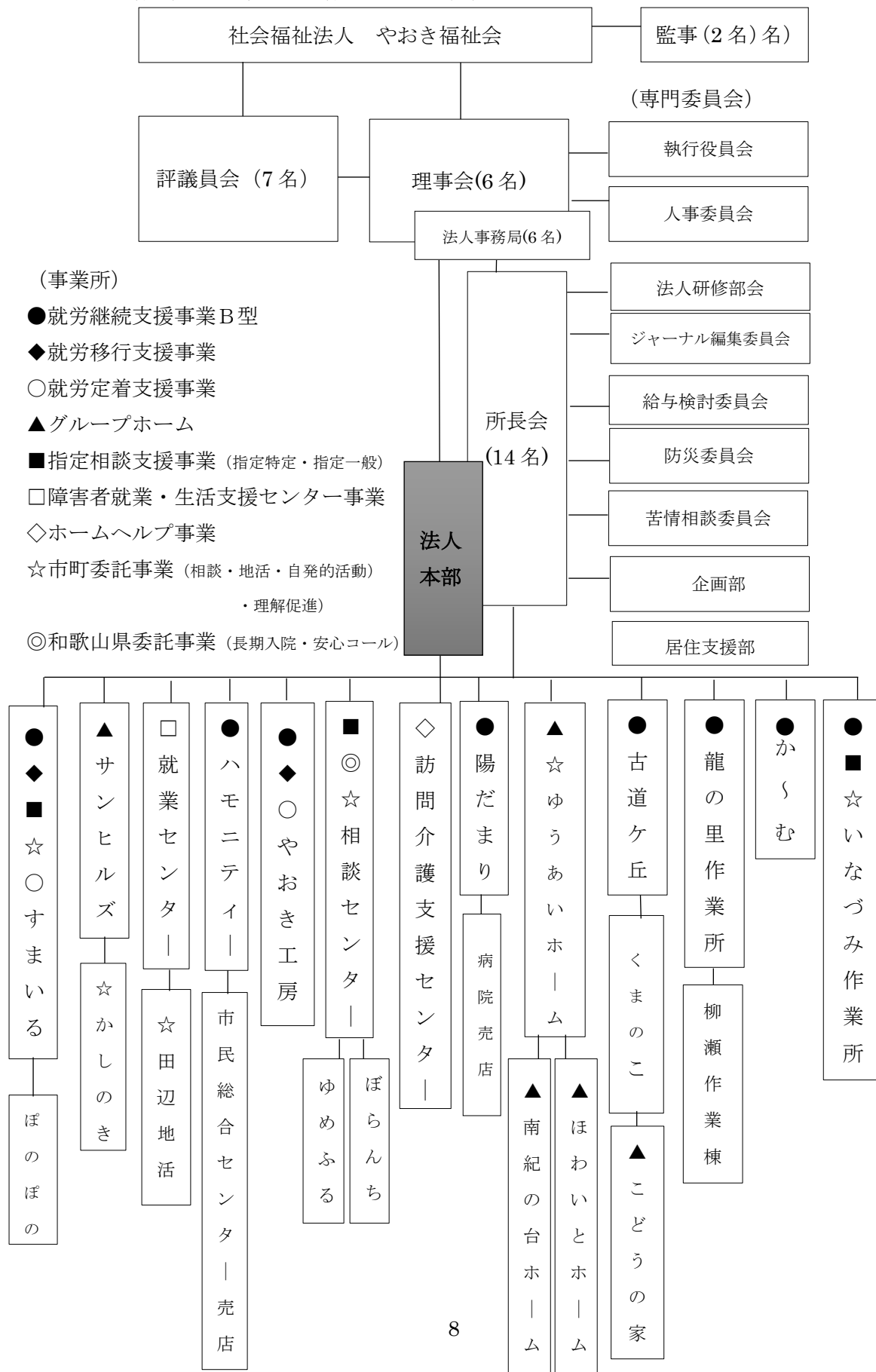
コロナ禍への対応として、各事業所への給付金とりまとめ、施設での備品・消耗品等の購入後の助成金申請を行った。また、県内・圏域内での感染拡大時には臨時での会議を開催し職員・利用者の方々への行動自粛についての依頼等を行ってきた。幸い、今年度は法人内での感染者は発生せず大事には至らなかったが、感染者発生に備えての対応についてのシミュレーション、対応者の確認等を行ってきた。

7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	01日 辞令交付式・勤続表彰式 07日 法人事務局会議 20日 所長会議 24日 人事委員会 28日 執行役員会	
5月	12日 法人事務局会議 18日 所長会議 21日 監事監査 23日 理事会（書面決議） 28日 執行役員会	
6月	02日 法人事務局会議 20日 評議員会（書面決議） 15日 所長会議 24日 執行役員会	3日 新人職員研修① 10日 新人職員研修② 17日 新人職員研修③ 31日 新人職員研修④ 26日 ジャーナル 87号発行
7月	07日 法人事務局会議 20日 所長会議 29日 執行役員会 31日 理事会（一次補正）	
8月	04日 法人事務局会議 17日 所長会議 26日 執行役員会	24日 コロナ関連通知研修
9月	03日 法人事務局会議 14日 所長会議 30日 執行役員会	
10月	06日 法人事務局会議 16日 人事委員会 19日 所長会議 28日 執行役員会	2日 ジャーナル 88号発行 10日 苦情担当者会議 15日 ボラ事業会議
11月	04日 法人事務局会議 16日 所長会議 25日 執行役員会・人事委員会 26日～27日 所長ヒアリング 26日 理事会（2次補正）	5日 ボラ事業会議 17日 ボラ事業会議

1 2月	01日 法人事務局会議 03日 人事委員会 20日 一般正職任用試験 21日 所長会議 23日 執行役員会 24日 人事委員会	8日 ボラ事業会議 22日 苦情担当者会議
1月	05日 法人事務局会議 12日 人事委員会 18日 人事委員会 18日 所長会議 27日 執行役員会・人事委員会 28日 人事委員会	4日 ジャーナル 89号発行 19日 ボラ事業会議
2月	02日 法人事務局会議 15日 所長会議 19日 理事会（3次補正） 24日 執行役員会	16日 苦情担当者会議 18日 ボラ事業会議
3月	02日 法人事務局会議 15日 所長会議 20日 理事会（事業計画・予算） 20日 人事委員会 24日 執行役員会	4日 ボラ事業会議 11日 B型4事業所会議 23日 ジャーナル 90号発行 26日 法人虐待防止研修

8. 法人組織（令和2年度の組織及び実施事業）



【指定相談支援事業】

令和2年度

紀南障害者地域生活支援センター事業報告（案）

1. 運営概況

令和2年度は、「指定特定相談支援」、入院患者の退院を支援する「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の「委託相談支援」、白浜町の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」、和歌山県の「長期入院精神障害者地域移行促進事業」、国交省の「居住支援事業」の7種9事業を総合的に実施した。

令和2年度の特徴は、どの相談支援における活動も新型コロナウイルス感染症の予防対策を踏まえ、大きな配慮を求められたことによる対応の難しさと市町に義務化された「生活支援拠点」「基幹相談支援センター」の設置、委託相談の圏域システム化に向けた動きなど、例年にない負担であったが、状況に応じた活動を行うことができたと考えている。

このようなもとの、令和3年3月、4月開所に向けた新圏域相談体制が決定し、白浜町障がい児・者相談支援室ばらんちを閉鎖した。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

福祉サービスの利用希望者への「サービス等利用計画の作成」に関する相談支援を実施しながら、3年度に改定される給付体系に向けて準備を行った。

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」については、病院や他機関からの要請がなく、今年度も制度の利用はなかった。ただし、制度の利用を行わずに独自の支援により、退院支援を行ったケースはあった。地域生活の安定を図る「地域定着支援」については、地域生活に見守りが必要な人に対して、電話相談・定期訪問・緊急時の支援等を実施した。対象者は3名であった。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

名称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」

所在地 田辺市民総合センター2階

運営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会

派遣 やおきより専任相談支援専門員1名（常勤換算1名）

(白浜町)

名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」

所在地 白浜町1279-9

運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会

派 遣 やおきより専任相談員1名、兼務相談員1名、デイサロン補助(兼務1.6)
(相談センター事務所)

所在地 田辺市下三栖1475-201 (本部敷地)

サテライト 田辺市新庄町2744-58 セレナヴィータビル2階B号

指定事務所である相談センターにおいては、計画相談および県・国委託事業を中心に、ゆめふる・ぼらんち以外の委託相談も実施した。

④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県から委託を受け、精神科病院で長期入院となっている「退院したいという意思が芽生えていない人」を対象として退院意欲の喚起を目的として実施し、利用者1名に対して支援を行ったが新型コロナウイルス感染症における病院方針として外出自粛があったため肝となる活動はできなかった。

そのほか、職種間の連携会議についても前年度まで月1回開催していたが、新型コロナウイルスの感染予防のため、本年度は自粛した。

⑤ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週1回のデイサロンを提供するとともに、月1回、調理体験・茶話会・アウトドア(季節行事、ドライブ等)等のプログラム活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症予防対策として緊急事態宣言時や圏域での発生時等においては自粛、制限しながらの活動を行ってきた。

⑥ 白浜町啓発等理解促進事業

本年度は、新型コロナウイルス感染症による研修等の自粛が一定期間求められ、住民向け、関係資源向けともに研修や講演会は行わず、基幹相談および委託相談の体制変更に伴う町民への周知を2年4月と3年3月に行った。そのほか、相談室「ぼらんち」を3月で解散する運びとなったため、10年間のぼらんち活動のまとめを行い、関係資源に呼びかけた解散総会を実施し、啓発を行った。

⑦ 居住支援事業

居住支援法人事業の申請を行い、8月～1月において居住相談支援を実施した。対象者は11名で入居につながった人が6名であった。

3. 地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

協議会の事務局に参加するとともに精神部会の活動を行った。また、令和2年度は拠点整備等検討委員会のメンバーとして、委託相談の圏域化に向けた協議に参加した。

② 田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4法人による「ゆめふる」の協働運営について、毎月、協議を行うとともに、市町行政のすすめる「地域生活支援拠点」「基幹相談支援センターの設置」「委託相談の圏域システム化」について協議を行い、方向性の共有を図った。

③ 医療・保健連携会議の開催

新型コロナウイルス感染症の予防における自粛があったため、回数は少なかったが、県の主幹する精神障害者地域移行関連連絡事業所連絡会に参加した。また、同じく県建築住宅課が主幹する居住支援関連会議に参加し、課題提言を行った。

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

町とぼらんちの連携会議に加え、町内福祉サービス事業所の連携を目的として「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。

4. その他の活動

① 新型コロナウイルス感染症による自粛対策で回数は少なかったが、支援の向上を目的として事業所内での事例検討や制度研修、他機関の実施する研修等に参加した。

② 行政及び諸団体の委員・役員等を担い支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	
5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	
7月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（かき米）
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（かき米）
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（パピリオンシティー）
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（パーベキュー）
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、	デイサロン（喫茶）

	地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	
1 2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（クリスマス&忘年会）
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（パピリオンシティー、 扇ヶ浜） 防災啓発映画（白浜）
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（ドライブ）
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（デイサロン移転場所の 見学） ぼらんち解散総会

6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（4人） やおき派遣数（1人）	ぼらんち全体（2.6人） やおき派遣数（1.5人）	2.1人
相談支援件数計	7,459件（4法人）	5,043件（2法人）	4,553件（相談センター事務所）

相談センター障害別相談件数（実人員：192人）

精神障害	知的障害	身体障害	発達障害	高次脳	難病	不明
2,766	796	266	292	178	6	249

相談センター年代別相談件数

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	児童
233人	40	788	565	1,150	1,333	348	280	89（4人）

7. 県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院事業 （2人）	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	17

8. 国補助事業支援件数

事業 / 月	6	7	8	9	10	11	12	1	計（補助事業期間：6月～1月）
居住支援事業 （11人）	69	57	93	131	90	62	81	72	655

【就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援】
令和 2 年度 やおき工房事業報告（案）

1. 運営状況

今年度は就労移行支援（定員 8 名）及び就労継続支援 B 型（定員 24 名）、就労定着支援（定員なし）の 3 事業の運営を行った。就労移行支援では就職者が 4 名という状況であった。新規利用が減り就職して退所する利用者の割合が増え、11 月からは定員を 6 名に減らした。就労継続支援 B 型では、利用実態に合わせて 8 月から定員を 20 名に減らした。

授産活動では、新型コロナウイルスの感染拡大により、お土産物の菓子箱折作業がほとんど止まってしまう状況があったり、予定していたバザーも全て中止となり見込んでいた収益が得られなかったりした。施設外就労や他の受託作業は大きな影響を受けなかったのは幸いであった。また、季節行事や外出してのレクリエーション活動、精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会に向けての練習等も行うことができなかった。就労定着支援においても長期間の自宅待機を強いられる利用者がいた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

【就労移行支援】

- (1) 就職者：4 名（9 月 サービス付き高齢者住宅・介護、11 月 仕出し弁当屋・製造、1 月 きのか栽培・加工業・製造、3 月 病院・清掃）
就業センターと連携し企業に同行し支援を行った。年度途中での退職はなかった。
- (2) その他の退所者：2 名（1 名は縁故就職で雇用契約なしでの就労となり実績にカウントできていない。もう 1 名は利用期限が来たため B 型に転籍して引き続き就労支援を行った。）
- (3) 併用利用者：2 名（1 名は午前半日就労、1 名は週 3 日の隔日就労）
- (4) 就労アセスメント利用者：6 名（他法人もしくは法人内の他事業所を利用するための利用者が多く、受入れ側としては負担となっている。）
- (5) 授産活動
 - i 給食事業：年間喫食数は 14,863 食であった。給食提供日は 212 日で一日当たりの平均喫食数は 70 食であった。

【就労継続支援 B 型】

- (1) 就職者：1 名（12 月 居宅介護事業所・事務補助）
- (2) 授産活動

- i 施設外就労：新型コロナウイルスの影響を受けずに比較的順調に推移した。
- ii 受託作業：菓子箱折り作業はほぼ停滞していた。
- iii 販売事業：製菓では、チュイールの OEM は完全に頓挫し終了となる。コーナン産直館等の販路が若干拡大したのとマドレーヌやポップコーンでは味のバリエーションが増えるなどした。マドレーヌは県のモニタリング事業を活用して味・パッケージ等の改良に努めた。

【就労定着支援】

- (1) 利用者：3名（相談支援や企業訪問等を行い職場定着を支援した。現在のところ退職者はなし。ホテル業の2名は新型コロナウイルスの影響を受けて就労日数が制限され自宅待機を強いられた期間もあった。自宅待機によりリズムが乱れたり、業務内容を忘れてしまったりと弊害も出た。待機期間の作業所の活用等も考慮し市町と話し合うことも必要である。）

② 生活支援活動

- (1) 土曜開所：15回開催する。今年度は作業日として開催することがほとんどであった。余暇支援としては映画鑑賞会（7/23 ジストシネマ田辺）、BBQ（9/26 やおき工房）のみであった。
- (2) 健康管理：
 - i 健康診断（3/26、29 白浜はまゆう病院）を実施し健康管理の支援に努めた。また、運動が必要な利用者を対象に定期的にウォーキングを実施した。
 - ii 田辺市やすらぎ対策課健康講座を活用し口腔ケア講座（3/31）を開催し、28名が参加した。口腔衛生観念の意識付けや適切な口腔ケアの習得を行った。
- (3) 学習支援：
 - i 就業センターのピアサポーター研修（2/5）に6名が参加し、就労者の生の声を聞き就労への意識付けを行った。
 - ii 井上労務事務所の協力を得て年金講座（3/17）を開催し29名が参加した。年金の基礎知識や障害年金の請求・受給後の手続き等について学習した。
 - iii 就労支援セミナー（10/13 上富田町文化会館）に5名が参加し、就労への意識付けを行った。
- (4) 余暇支援：コロナ禍で外出レクリエーション等を行えなかった。その代わりに、事業所内で行えるレクリエーションを工夫した。今年度は一泊旅行を断念し日帰り旅行（11/27 那智勝浦町）を実施し27名が参加した。
- (5) サークル：今年度はコロナ禍で毎年参加していた精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会が実施されなかった。それに向けての練習も今年度は中止となった。
- (6) 防災訓練：11/19（19名参加）、3/3（29名参加）の2回行った。総合訓練に加え

て、消火器の使い方を学んだり消火訓練を行ったり、火災予防についての動画学習を行った。また、田辺市防災まちづくり課による『地震・津波避難・土砂災害について』の学習会も行った。

③ 個別処遇関係

- (1) 医療支援：利用者 7 名に受診や入退院の同行支援を行った。2 名には服薬管理支援を行った。今年度は精神的不調による入院が 2 名、脳梗塞や誤嚥性肺炎、腎臓の悪性腫瘍等の内科的な疾患による入院が 3 名であった。
- (2) 免許取得支援：3 名に運転免許取得にかかる手続きや学習支援を行った。2 名が普通自動車運転免許を取得し、1 名が原付免許の学習継続中である。
- (3) 紀南こころの医療センター訪問看護との定期カンファレンスを 11/30 に実施し、利用者 3 名の情報共有・支援内容の検討を行った。
- (4) 家族懇談会：コロナ禍により中止とした。必要な家族とは個別に調整を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ゴミ拾い&ウォーキング：コロナ禍で作業にゆとりができ、運動が必要な利用者数名と三栖沿道の清掃ボランティアを行う。7 月以降で計 20 回実施し延べ 80 名が参加した。
- (2) バザー用品等の貸し出し：上富田町教育委員会に綿菓子機を貸し出した。
- (3) バザー活動：コロナ禍で予定していたバザーはすべて中止となった。
- (4) 田辺市自殺予防街頭啓発活動（3/11 よって）に 3 名が参加した。

4. その他の活動

- (1) はまゆう支援学校高等部 3 年生 8 名を就業体験（現場実習）で受入れた。
- (2) ふれあい文化祭オンライン（2/13～27）に動画参加し事業所アピールを行った。
- (3) 紀南看護専門学校精神科看護実習についてはコロナ禍のため受け入れを断念した。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	25	土曜開所（作業）	
5	13	DVD 鑑賞会	
	16	土曜開所（作業）	
	30	土曜開所（作業）	
6	17	DVD 鑑賞会	
	25	グラウンドゴルフ交流会（上富田スポーツセンター）	
7	11	土曜開所（作業）	
	15	DVD 鑑賞会	
	23	映画鑑賞会（ジストシネマ田辺）	
8	8	土曜開所（作業）	

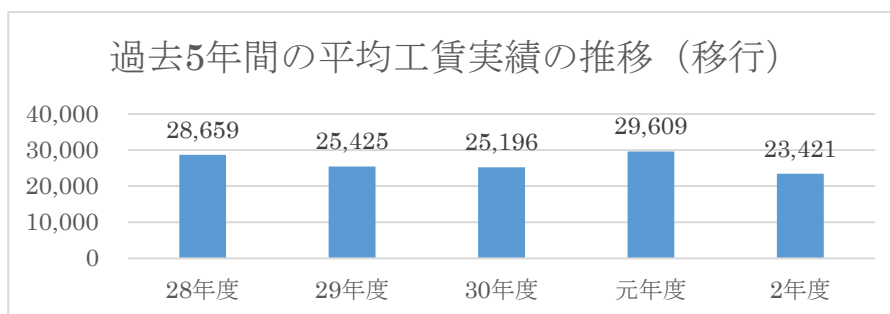
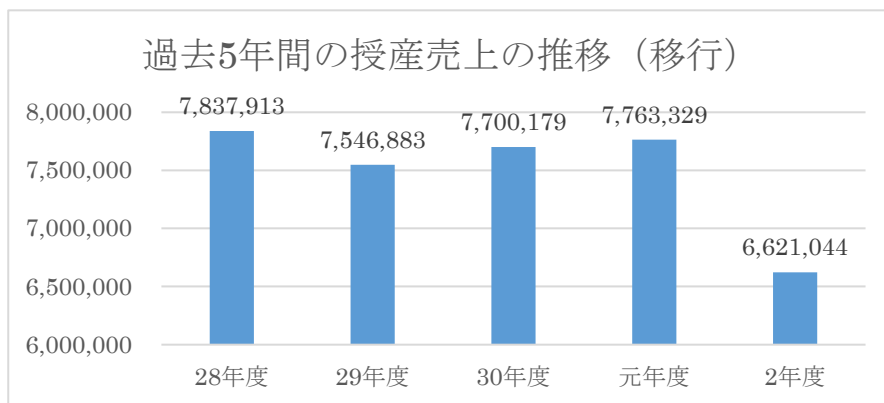
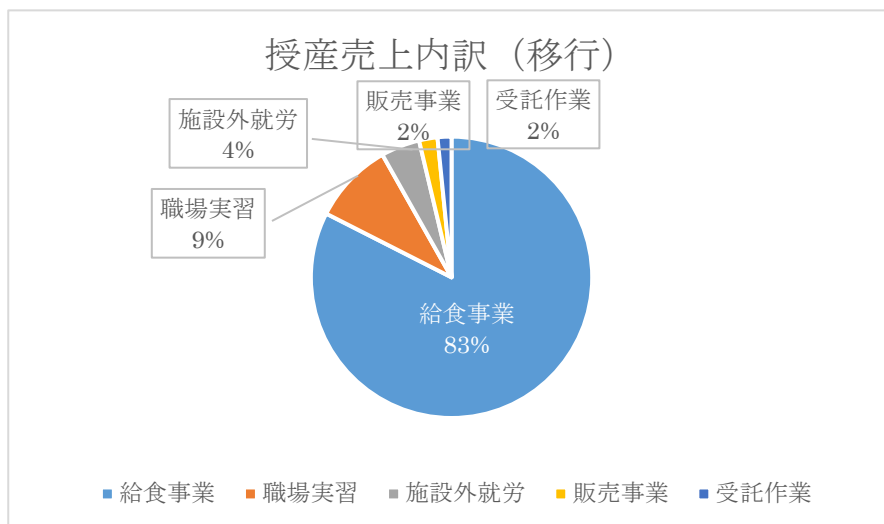
	29	土曜開所（作業）	
9	16	DVD鑑賞会	
	26	土曜開所（BBQ）	
10	1	さくらサーカス鑑賞（印南町）	
11	3	土曜開所（作業）	
	9	インフルエンザ予防接種（うえだ内科外科クリニック） 11/9、10、11、13、16、17、19	
	19	防災訓練	
	21	土曜開所（作業）	
	27	日帰り旅行（那智勝浦町）	
12	12	土曜開所（作業）	
	26	土曜開所（作業）	
1	4	初詣&レクリエーション（闘鶏神社）	
	23	土曜開所（作業）	
	29	新年会レクリエーション	
2	13	土曜開所（作業）	
	27	土曜開所（作業）	
3	3	防災訓練	
	11	自殺予防街頭啓発（よってって）	
	17	年金講座	
	24	忘年会レクリエーション	
	26	健康診断（白浜はまゆう病院）3/26、29	
	31	口腔ケア講座	

6. 数値実績

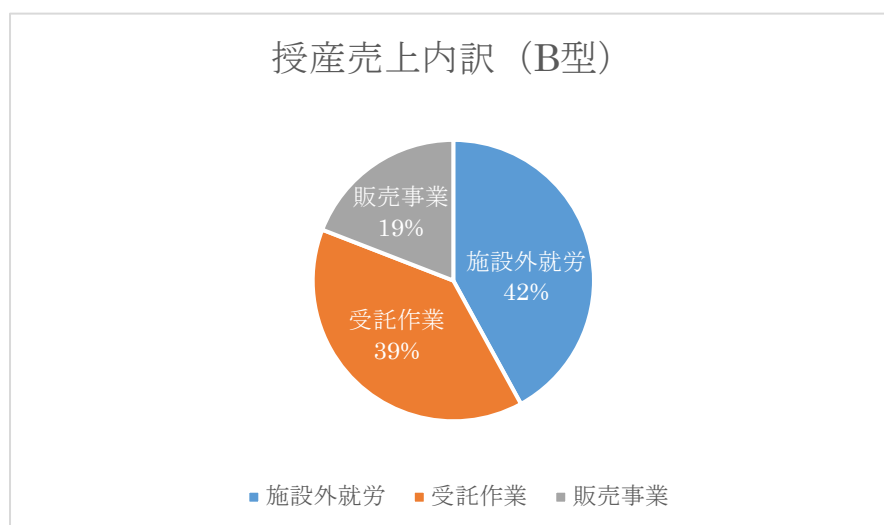
① 施設概要

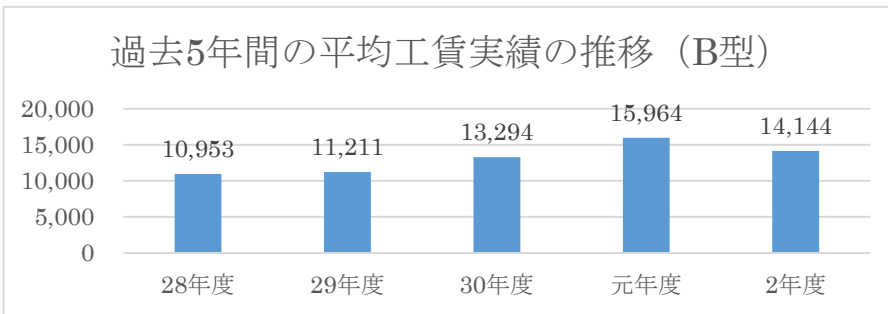
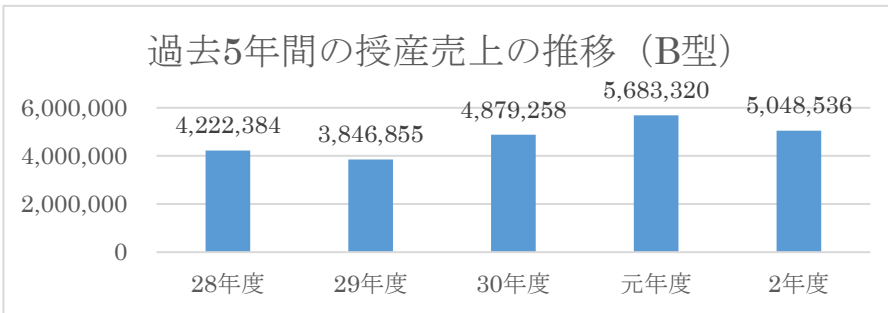
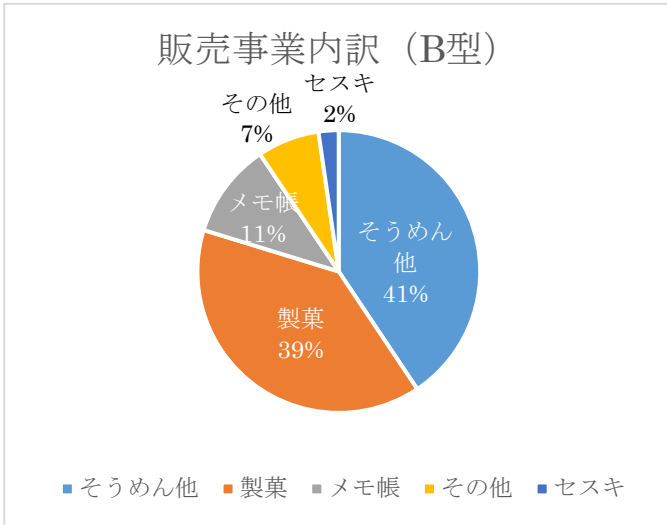
事業種別	【就労移行支援】	
	令和2年4月	令和3年3月
定員	8人	6人
実利用者数	11人	9人
1日平均利用者数	9.0人	6.4人
職員常勤換算配置数	3.3人	2.7人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	308日	70日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	給食事業	5,461,380円
	職場実習	618,224円
	施設外就労	295,335円
	販売事業	140,330円

	受託作業	105,775 円
		計 6,621,044 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 なし	実績 月額 23,421 円



事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 2 年 4 月 24 人	令和 3 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 2 年 4 月 31 人	令和 3 年 3 月 28 人
1 日平均利用者数	令和 2 年 4 月 20.5 人	令和 3 年 3 月 21.2 人
職員常勤換算配置数	令和 2 年 4 月 6.3 人	令和 3 年 3 月 6.1 人
年間稼働日数	総稼働日数 257 日	休日開所日数 17 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	施設外就労	2,121,165 円
	受託作業	1,962,936 円
	販売事業	964,435 円
		計 5,048,536 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 13,000 円	実績 月額 14,144 円





② 利用実績 (月別)

【就労移行支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	9.0	8.6	7.7	6.0	5.3	4.7	4.5	4.2	4.6	5.9	6.2	6.4
開所日数	22	20	26	30	30	30	31	26	27	24	20	22

【就労継続支援 B 型】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.5	20.8	21.6	19.7	18.9	20.5	20.5	20.0	19.9	19.5	20.0	21.2

開所日数	22	20	22	23	19	21	22	22	23	20	20	23
------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

【就労移行支援】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	2	2				5
女		2					2
計	1	4	2				7

(平均年齢 25.7 歳)

【就労継続支援 B 型】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男		5	2	4	7	1	19
女		1	1	3	3	1	9
計		6	3	7	10	2	28

(平均年齢 44.9 歳)

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	23 名
知的障害	11 名
身体障害	1 名
手帳未取得	0 名
その他	0 名

【介護サービス包括型共同生活援助】

令和2年度 ゆうあいホーム事業報告（案）

1. 運営状況

ゆうあいホームを主たる事業所とし、ほわいとホーム、すてっぷはうす、南紀の台ホームを従たる事業所とし、一体的な運営を行った。

① 利用者の入退所

今年度は定員 42 名に対して、利用者 39 名でスタートすることになった。新型コロナウイルス感染症に気をつけながらも、見学、体験の受入れは行い、1 名の新規利用があった。退所する事例は無かった。

② 第2すてっぷはうすの退去

南紀の台に新たなホームを整備していく動きがある中で、数年にわたり定員に対して空き居室がある第2すてっぷはうすについては、退去することとした。

③ ほわいとホームの契約更新

10 年の長期契約を終える時期となり、家主と契約更新の協議を行った。賃借料の減額して頂くこともできたことから、契約更新を行うこととした。

④ 新型コロナウイルス感染症への対応

入居者に基礎疾患等の重症化リスクの高い利用者が含まれることから、感染防止を優先することとした。また、集団感染を防ぐ取り組みとして、日中事業所の関係者に感染者が発生した事例において、本人が PCR 検査の対象になるか判明するまでの間、一時的に古道ヶ丘バンガローにて隔離生活を送ってもらう事例があった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

- (1) 日中事業所への訪問や電話連絡等で、活動時の様子を把握することに努めた。
- (2) 昼食後の服薬支援が必要な利用者、日中事業所と連携して支援した。
- (3) 体調不良などがあつた際には、日中事業所と連絡を取り合い、情報の共有に努めた。
また、通所後の体調不良時等においては、可能な限りホームでの見守り体制を整えた。

② 生活支援活動

- (1) 給食の提供（平日の朝食、夕食）
- (2) 服薬の自己管理が困難な利用者に対して、その人にあつた方法で服薬管理を支援した。
- (3) 計画的な金銭の使用が困難な利用者に対して、その人にあつた方法において計画的

に使用すること、貯蓄することへの支援を行った。

- (4) 個人で受診することが困難な利用者や医療機関から職員の受診同行を求められた際には、受診の同行を行った。総合病院の初診料が高額となり、地域の医療機関の受診頻度が増える状況となっている。
- (5) 必要に応じて、血圧や検温、体重等、毎日の測定とその記録を支援した。診察時の情報提供等も行った。
- (6) 移動手段のない利用者を対象に、週末の買い物支援を継続して行った。尚、地域にコロナ感染事例が発生している際には、職員が買い物を代行することとした。
- (7) ゆうあいホームとほわいとホームに宿直員を配置し、夜間を含めて相談対応や服薬に関する支援をした。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画を作成し、一人一人の生活課題への取り組みや、目標達成に向けて継続して支援した。
- (2) 個別な相談対応を必要とする利用者も多く、適切な相談支援を行うように努めた。
- (3) 入浴時等に一部介助を必要とする利用者に対しては、同性介助を行うこととし、その体制保持に努めた。
- (4) 相談支援専門員等、関係機関の職員との意見交換や情報共有に努めた。

④ 短期入所事業

- (1) 令和2年度の利用者は10名で、延べ65日の利用だった（平均利用0.2名）。
- (2) 利用者の出身市町村の内訳は、田辺市5名、白浜町1名、上富田町1名、みなべ町1名、那智勝浦町1名、新宮市1名であり、新規利用者は1名だった。
- (3) 館内での新型コロナウイルスの集団感染を防ぐ観点から、感染事例発生している地域からの利用について、一定の制限を設けることとした。その結果、12月以降の受入れができなかった。

⑤ 日中一時支援事業

- (1) 令和2年度は、1名の対象者（白浜町）により10回の利用があった。
10月以降は、ご家族の就労状況の変化もあり、利用する必要性が無くなり、その他の受入れは無かった。

⑥ 田辺市自発的活動支援事業

- (1) 法人内で実行委員会を開催し、企画の内容についての検討や実施に向けての準備を行った。

- (2) 新型コロナ感染症の影響により、不特定多数の方に呼びかけるイベントの開催は実施せず、YouTube 上での動画配信における講演会の実施や小規模で感染対策を実施しての当事者活動を企画、実施した。

3. 地域交流・地域貢献活動

- ① 福祉職に興味がある高校生を体験ボランティアとして受入れた。
 ② 町内会の清掃活動に参加し、地域の美化活動に協力した。(ほわいとホーム)

4. その他の活動

- ① 新型コロナ対策緊急包括支援事業により、各ホームの食堂に飛沫防止パネルを設置した。また、テーブルを増設するなど、スペースの許す範囲で密接しない環境整備を行った。他、空気清浄機や加湿器などを食堂や娯楽室といった共有スペースに設置した。

5. 行事報告

新型コロナ感染症対策として、行事への参加は見合わせた。外食等も控え、ホーム内での活動に変更した。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【介護サービス包括型 共同生活援助】	
定員	令和2年4月 42人	令和3年3月 42人
実利用者数	令和2年4月 39人	令和3年3月 40人
1日平均利用者数	令和2年4月 38.5人	令和3年3月 39.3人
職員常勤換算配置数	令和2年4月 11.5人	令和3年3月 11.5人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 365日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	38.5	37.5	38.0	37.9	37.4	38.2	37.6	39.2	39.1	38.0	39.3	39.3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	3	5	5	5	5	23
女	0	1	1	7	3	5	17
計	0	4	6	12	8	10	40

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	36名
知的障害	4名
身体障害	2名
手帳未取得	0名
その他	0名

【居宅介護等事業】

令和2年度 訪問介護支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

事業を陽だまりから分離し事務所を田辺市本町に移転した。一年をかけ事業所として独立採算可能な状態にするために新規利用者の獲得に努めるとともに、質の高いサービス提供に向け研修を充実させた。

2. 事業報告

(1) 事業概要

① 身体介護（居宅介護・訪問介護）

- i 入浴介助…入浴の介助又は入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- ii 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- iii 食事介助…食事の介助を行った。
- iv 体位変換…体位の変換を行った。

② 家事援助（居宅介護・訪問介護）

- i 調理…利用者の食事の用意を行った。
- ii 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- iii 掃除…利用者の居室の掃除を行った。
- iv 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

③ 通院介助（居宅介護）

- i 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④ 移動支援（居宅介護）

- i 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤ 同行援護

- i 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥ 個別処遇関係

- i サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ii 個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービス

の提供を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 特になし

施設名	訪問介護支援センター			
	利用者数	R2年4月 19人	R3年3月 28人	障害者総合支援 25人
登録ヘルパー数	30年4月 9人	31年3月 11人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	人 人		
	休 止 中	人		
利用市町村内訳	田辺市	23人	田辺市	3人
	白浜町	3人	白浜町	人
	みなべ町	2人	みなべ町	人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 陽だまり事業報告（案）

1. 運営状況

令和 2 年度の新規利用者は 5 名で退所者は 2 名であった。

退所理由については、1 名はコロナ禍の影響で休業状態が続いていた仕事が再開したため、もう 1 名はケガの後遺症や精神面の不調により退所となった。あとの新規利用者 4 名は現在も通所している。新規利用者の入所に伴って令和 2 年度の年間利用率が前年の 19.6 人から 0.9 人増加し 20.5 人となった。

令和 2 年度については年間利用率増の結果となったが、年々見学者や新規利用者の減少が止まらず、西牟婁圏域の相談支援事業所の相談員の話によると、最近では A 型事業所や高工賃（月 5 万円以上）を謳っている B 型事業所が非常に人気であることから、今後の事業所運営においても厳しいことが予想される。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 請負作業

i 亀井商店（トイレ掃除用ブラシ包装、掃除用スポンジ包装など）

コロナ禍の影響は多少あり、中国からの船便が遅延となりスポンジ関係の授産作業は減額となったが、相手先よりスポンジ作業に代わる新たな作業（ブラシの梱包）の提供があり、授産収入の大幅減収は回避することができた。

ii OFM（電子部品）

電子部品の組み立て作業は景気に大きく左右される特性があり、ここ数年は最盛期に比べると半分以下の量で推移してきたが、令和 2 年度は若干数量が増加した。

iii こころの売店（紀南こころの医療センター内売店業務）

入院患者の高齢化に伴い、生活用品の需要が高まり、年々売り上げの微増状態が続いている。

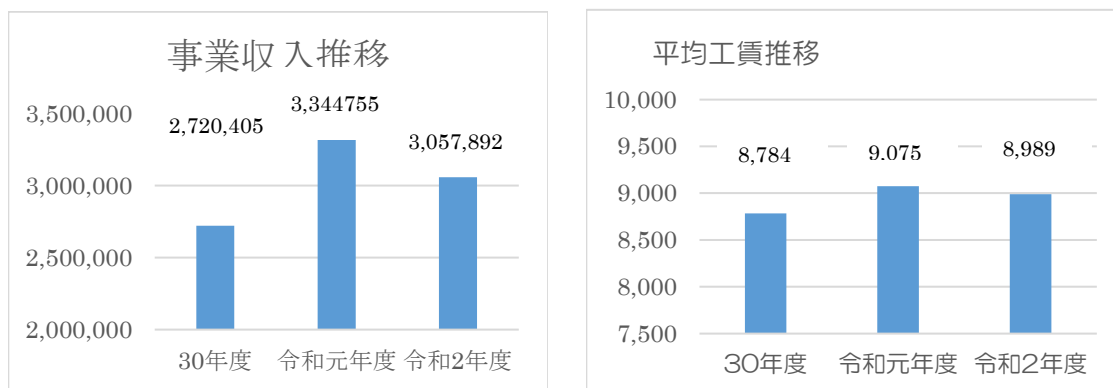
iv 夏季・冬季物販活動（そうめん、ちゃんぽん）

毎年、そうめん及びちゃんぽんの売り上げの純利益が 25 万円程度あり、メンバー賞与の財源に充てることができている。

v チョコレート販売（売店ピュア、ビッグ U、喫茶ゆうとぴあ）

コロナ禍の影響で、若干売り上げが減少した。

【事業収入及び平均工賃推移】



② 生活支援活動

(1) 生活支援

i 設内清掃や給食片付け等の日常生活訓練

- ・施設内の掃除や食器洗い等を日々行うことによって、日常生活の能力を維持すると共に、能力向上を目指すことを目標に取り組みを行った。

ii だしなみや服装の確認

- ・真夏に長袖や真冬に半袖など、被服について混乱する利用者に対して、施設内で服を着替えることなど、季節に合った服を選ぶ訓練を習得できるまで重ねて行った。

iii クリエーションのバリエーション化

- ・令和2年度はコロナ禍の影響で、外食、ドライブ、旅行など施設外に出掛けることが全くできない状況となり、日に日に利用者のストレスが溜まる一方であったので、施設内で少し高級なお弁当を食べるなど、これまでの「外に出掛ける楽しさ」から「食べる楽しさ」にシフト変更した。

iv 余暇活動

- ・開所当初から月一回は土曜日開所を行い、主に調理実習を行ってきたが、令和2年度はコロナ禍の影響もあり、土曜日開所は実施しなかった。

(2) 健康管理

i 健康診断の実施（はまゆう病院）

- ・毎年健康診断を実施しており、再検査が必要な場合は職員が同行する体制を毎年取っているが、令和2年度も利用者の中で再検査が必要なことはなかった。

ii ラジオ体操や朝礼後の散歩

- ・利用者の健康管理の一環として、朝礼後に全員でラジオ体操を行い、その後に近隣の新庄公園に散歩に行き健康促進を行った。但し、真夏の時期は熱中症予防として、散

歩を中止する場合もあった。

(3) 個別処遇関係

i 個別支援計画の作成

- ・利用者のニーズや課題を具体化して、その計画書に沿って支援を行った。

ii ケース会議やケア会議の開催、関係機関との連携

- ・利用者の中に、何度もサラ金でお金を借りるケースや自殺未遂も2件発生するなど、施設だけでは対処できないことが頻繁に発生したので、問題が発生する度に関係機関（行政、医療、相談支援事業所等）が集まり、何度もケース会議を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) コロナ禍の以前は毎年、看護学生（紀南看護専門学校、熊野高校）の実習受け入れを行ってきたが、令和2年度は中止とした。
- (2) コロナ禍の以前は、地域の方より依頼があれば、バザー用品（フライヤー等）の貸出を行ってきたが、令和2年度は中止とした。

4. その他の活動

(1) 避難訓練（2回／年）

- ・防災訓練は毎年実施しているが、毎年のように避難訓練や消防訓練だけでは「慣れ」が出てきてしまうので、令和2年度は上記の訓練内容以外に、映像を流して可視化することで、防災意識の大切さを再認識できるように訓練を行った。

(2) 施設建物安全点検(1回／月)

- ・施設の構造上二階建てであり、頻繁に外階段を利用するので、雨などで滑りやすくなっていないかなど、事故や怪我が発生しないように定期的に確認を行った。

(3) 車両点検(1回／月)

- ・毎日約10名の利用者が送迎を利用しており、車両の稼働率は非常に高い、そこで整備不良などで事故等の発生を防ぐために定期点検を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	1 7 21	お楽しみ弁当 自治会 釣り	月一回開催
5	7 12 26	お楽しみ弁当 自治会 グラウンドゴルフ大会	月一回開催 年一回開催
6	4 9 19	お楽しみ弁当 自治会 消防訓練	月一回開催 毎年実施

7	2 7 21	お楽しみ弁当 自治会 釣り	月一回開催
8	6 11	お楽しみ弁当 自治会	月一回開催
9	3 8	お楽しみ弁当 自治会	月一回開催
10	1 13 23	お楽しみ弁当 自治会 バーベキュー	月一回開催 年一回開催
11	5 10	お楽しみ弁当 自治会	月一回開催
12	3 8 25	お楽しみ弁当 自治会 忘年会&クリスマス会	月一回開催 年一回開催
1	5 7 22 29	初詣 お楽しみ弁当 利用者健康診断 利用者健康診断	鬮鶏神社 月一回開催 はまゆう病院 はまゆう病院
2	4 9	お楽しみ弁当 自治会	月一回開催
3	4 9 26	お楽しみ弁当 自治会 送別会	月一回開催

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 2 年 4 月 20 人	令和 3 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 2 年 4 月 24 人	令和 3 年 3 月 28 人
1 日平均利用者数	令和 2 年 4 月 18.6 人	令和 3 年 3 月 21.5 人
職員常勤換算配置数	令和 2 年 4 月 3.6 人	令和 3 年 3 月 3.6 人
年間稼働日数	総稼働日数 239 日	休日開所日数 0 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	受託請負	2,484,792
	物品販売 (チョコレート)	313,050
	物品販売 (そうめん)	156,550
	物品販売 (ちゃんぽん)	10,3500

		計 3,057,892 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000 円	実績 月額 8,989 円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	18.6	19.5	19.9	19.3	20.8	20.7	21.4	21.3	21.1	21.1	21.9	21.5
開所日数	21	18	22	21	17	20	22	19	20	18	18	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	2	3	3	7	16
女	0	1	1	3	5	2	12
計	0	2	3	6	8	9	28

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	19名
知的障害	6名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	3名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 ハモニティ事業報告（案）

1. 運営状況

令和 2 年度ハモニティは、定員 20 名、登録者 24 名でスタートする。年度内新規利用者は 1 名、退所者は 1 名であった。退所理由は、高齢による身体機能の低下から、介護保険のデイサービスへの移行、新規利用者については、A 型事業所から移行されてきた方であった。新規利用相談や見学者は少ない傾向で、利用者の入退所は例年に比べると少ない状況であったが、登録利用者については、大きく調子を崩される方もなく、みなさん比較的落ち着いた状態で利用していただき、1 日の平均利用者数は 20.1 人であった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

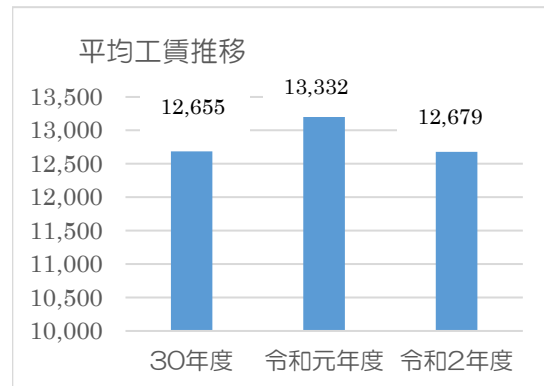
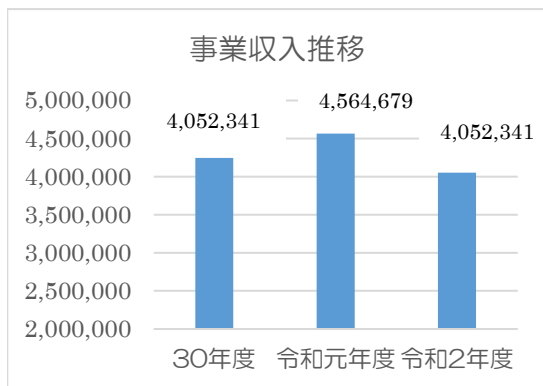
(1) 請負作業

- i 亀井商店（食洗用スポンジ包装、タオル包装など）
- ii OFM（電子部品）
- iii 紀伊民報（新聞帯封）
- iv 田辺市職員共済会（市民総合センター内売店運営）
- v 紀州うめまさ・福梅本舗（梅商品包装、DM 印刷等）

(2) 古紙・空き缶・古着回収

(3) 印刷物受注販売

【事業収入及び平均工賃推移】



② 生活支援活動

(1) 日常生活

- i 清掃や食器洗いの習慣的な取り入れ。
- ii 被服や身だしなみについての助言。
- iii レクリエーションの機会を使った買い物支援。
- iv 茶話会やドライブなどの余暇活動。

(2) 健康

- i 健康診断の実施（はまゆう病院）。
- ii ラジオ体操や体重管理
- iii レクリエーションの機会を使った散歩や軽い運動。

③ 個別処遇関係

(1) 個別支援計画の作成

- (2) 各種サービスや資源の情報提供と活用のための援助。
- (3) ケース会議やケア会議の開催、関係機関との連携。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 古紙・空き缶・古着回収事業を通して地域の方々から協力をいただいた。
- (2) 併設道路脇の除草作業の実施(4回/年)。

4. その他の活動

- (1) 避難訓練(2回/年)
- (2) 施設建物安全点検(1回/月)
- (3) 車両点検(1回/月)

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	2 16 30	花見 茶話会 DVD鑑賞	動鳴気峡 クレープづくり
5	14 21	ボードゲーム 釣り	将棋・花札 湊浦漁港
6	18	買い物レク	パビシ
7	2 9 30	外食レク 買い物レク 利用者夏季賞与	とれとれ亭/和わ パビシ
8	11 28 31	バーベキュー 職員健康診断 職員健康診断	

9	3 17	お弁当レク 買い物レク	
10	1 5 8 15	赤い羽根共同募金 職員健康診断 さくらサーカス 買い物レク	グルメシティー万呂店 印南 しまむら・ワークマン
11	12 26	ドライブレク 避難訓練	近露
12	10 25 25	買い物レク 忘年会&クリスマス会 利用者冬季賞与	グルメシティー
1	5 7 28 29	初詣 茶話会 利用者健康診断 利用者健康診断	闘鶏神社 ぜんざいつくり はまゆう病院 はまゆう病院
2	18	買い物レク	パビシ
3	11 26	植芝盛平記念館・扇ヶ浜公園散策 虐待防止研修	Big-U

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 2 年 4 月 20 人	令和 3 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 2 年 4 月 24 人	令和 3 年 3 月 24 人
1 日平均利用者数	令和 2 年 4 月 20.7 人	令和 3 年 3 月 20.0 人
職員常勤換算配置数	令和 2 年 4 月 5 人	令和 3 年 3 月 5 人
年間稼働日数	総稼働日数 239 日	休日開所日数 0 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	受託請負	2,937,425
	古紙・古着・アルミ缶	401,068
	印刷	678,898
	その他(物品販売等)	34,950
		計 4,052,341 円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 15,000 円	実績 月額 12,679 円
-----------------	---------------------	-------------------

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.8	21.0	21.2	20.0	20.1	19.7	18.2	20.4	19.8	19.7	20.3	20.0
開所日数	21	18	22	21	17	20	22	19	20	18	18	23

③ 利用者の性別・年齢層 (令和3年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	2	6	5	3	16
女	0	0	1	2	3	2	8
計	0	0	3	8	8	5	24

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	19名
知的障害	5名
身体障害	名
手帳未取得	名
その他	名

【障害者就業・生活支援センター事業】

令和2年度

紀南障害者就業・生活支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町を圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行っています。

例年通り、当初計画と当事者のニーズに沿って、就業・生活支援を行ってきました。今年度は、コロナ禍での就業支援となっていますが、就職や就職に向けた職場実習など数字的には大きな影響はありませんでした。ただ、支援を行うにあたり、①事業所訪問の制限や立ち入り禁止など就労場面での支援、特に介護施設への介入が難しかったです。②常時行っている実習先の業務が減少又は無く、職場実習で見極める機会が減りました。また現に就労されている企業においても、長期的に会社が休みになったり、週2日程度の出勤しかないなど、生活リズムを維持していくことが難しく、いざ出勤になった時には業務の流れに乗りにくくなっている情報も入ってきています。③働く上でコロナ禍での行動自粛などが会社から伝えられても、行動自粛が理解できない方もおられ、勤務している職場がどういった場所であるかの説明も再三行ってきましたが改善されず、仕事とプライベートのどちらを優先に考えるのか選択肢を求めたところ、プライベートを選択したので退職を促したケースもありました。④都市部に本社がある企業の特例子会社が事業一部閉鎖により24名の障がい者が、勤務時間が極端に短くなる雇用に変更される案件も出ています。まだ、コロナ禍による障がい者解雇が出ていないのが幸いかと思います。⑤県外への移住相談2件、県外からの帰郷予定相談1件などがあり、双方とも支援を希望する方々であります。県外移住希望者に関しては基礎疾患も持っているため、一旦は地域のA型サービス利用を始め、時期をみて行きたいとの思い。もう1名に関しては関東圏域を希望されているため、来年度を目途に支援機関とリモート面談を行い始めました。

年々、発達障害を持たれた方の職場定着には、定期的な面談の必要性がある人が多くなっています。勤務後や休日にセンター来所にて面談を行い、振り返りをもって本人の思いや企業の求めることの整理を行うことで、会社での対人トラブルを防ぐことにつながっているように感じます。就職に向けては、こだわり部分が取れず、中々就職先が見つからない状況になっても、こだわり優先を変えずにいる方、面接練習で助言などを行っても受け入れることができず、そのまま面接に向かい不採用となってしまう方、失敗が積み重なり再就職へのステップに踏み切れない方、2次障害となって精神疾患症状が強くなってしまった方、仕事がかんどいと言い出し、面談にて整理することで、生活面のストレスが8割

を占めていたことに気づいた方など多様なケースがありました。

支援学校卒業生への支援で、交友関係でのトラブルが多くなっています。金銭を伴うトラブルが多く、そこに健常者が関係してきていることもあります。会社から指摘を受けても家庭からのフォローが難しく仕事への影響も出てきています。家庭からのフォローがしっかりしている方については、多少の問題が発生してもすぐに修正が可能な状況になっています。学校を卒業し、支援を行うも支援離れしてしまい離転職を繰り返したり、支援を受けずに就職するも地域トラブルになったりしているケースもあり、そういったケースが相談事業所に回ってきており、今年度の卒業予定生より相談事業所にも把握してもらう形を提案してきました。

今年度からの事業内容で、①ピアサポートとして、就労移行支援事業所を卒業し一般就労へ繋がった方から、現在訓練している人へ体験談をする機会を設けました。利用者の反応はまだつかめていないが、同席した職員から一般就労に行ったことでレベルアップしているとの評価を受けました。②中小企業における障害者支援担当者への支援として、発達障害に特化し、和歌山県発達障害者支援センターポラリス様より講師を招き講演していただきました。参加企業は少なかったですが、実際に関わってくれている企業様より、今対応していることの確認が取れたこと、今後の不安事を相談することができましたなどの意見がありました。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 就職に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）

i 体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援

(2) 求職支援活動

i ハローワークへの同行等による求人検索

ii 地域新聞等広報紙による求人への相談と対応

iii 独自の企業開拓

(3) 職場定着支援

i ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）

ii 就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問

iii 職場、生活面での相談対応

(4) 障害者活躍推進計画の作成のため国等の機関が設置・開催する検討会等への参画

(5) 事業所に対する障がい者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言

i 中小企業における障害者支援担当者に対する支援の実施【1/26】

(6) ピアサポート活動の実施【2/5】【2/19】

(7) 関係機関との連絡調整・会議

i 運営協議会の開催【3/5】

- ii 和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議 【7/10】【11/4】【3/3】
- iii 特別支援学校連絡会 【8/4】【10/6】
- iv ハローワークとの連絡会議 【7/29】【3/16】
- v 全国就業支援 NW 定例研究会参加【コロナにより中止】
- vi 近畿ブロック経験交流会 【11/20・リモート】
- vii 西牟婁圏域自立支援協議会定例会 【8/11】【12/7】【2/8】、就労部会活動【7/30】【3/5】
- viii 圏域内就労移行支援事業所 3 カ所との連携会議【毎月 1 回 指定曜日】
- ix セミナー等の開催
- x 和歌山県障害者職業センターとの連携（月 1 回・職業評価、拡大ケース会議）
- xi 和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）
- xii 各研修会学習会への職員派遣
- viii 移行事業所職員・当事者への作業基礎訓練実施（JST トレーニング）
【コロナにより中止】

② 生活支援活動

- (1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言
 - i 医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
- (2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
 - i 行政手続き補助および代行
 - ii ワーカーズクラブの活動補助
- (3) 関係機関との連絡調整・会議
 - i 全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会【コロナにより開催なし】

③ 個別処遇関係

- (1) ジョブコーチ支援の実施【毎月第 4 月曜日連携会議】【随時】
- (2) A 型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- (3) B 型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- (4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】

④ 余暇活動

- (1) 職場定着促進のための在職者交流活動
 - i ワーカーズクラブ活動補助
 - ii 他法人との在職者交流会（県外・県内）茶話会・スポーツ交流・語りべなど
【コロナにより中止】

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 地域交流活動
- (2) 地域貢献（公益）活動

4. その他の活動

- (1) 障害者就業・生活支援センター事業についての学習会
- (2) 職場実習支援制度や障害者雇用支援制度の学習会
- (3) 就職に向けてのプロセスの学習会

5. 行事報告

- (1) ワーカーズ活動

【田辺保健所管内での新型コロナウイルス感染発生があったことなどから、定期会議が 4 回】

月	日	行事等	備考
4			
5			
6			
7	7	定期会議	
8	1 4	BBQ（希望者のみ） 定期会議	※コロナの関係
9			
10	6	定期会議	
11	10	定期会議・研修「交通安全教室」	
12			
1			
2			
3			

6. 数値実績

- ① 施設概要

- ② 利用実績

- ③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	13	69	36	26	20	5	169
女	1	40	19	22	9	0	91
計	14	109	55	48	29	5	260

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	96名
知的障害	148名
身体障害	15名
手帳未取得	0名
その他	1名

⑤ 実績数値

	身体	知的	精神	その他	合計
相談・支援件数	71	4,865	2,641	36	7,612
職場実習件	1	39	22	0	62
就職者数	3	19	7	0	29
職場訪問による定着支援	1	1,463	631	1	2,096

就職率（一般企業への就職者数／新規求職者数） 76.3%

定着率（前年度就職者の6ヶ月後、1年後の在職率）6ヶ月後 100%、1年後 85.7%

【地域活動支援センターⅢ型】

令和2年度 紀南地域活動支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動を行ってきた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズにより内職作業に取り組む。お菓子の袋詰め、日用品の包装、梅製品の包装作業、缶バッチ制作などを行い、月1回の企業清掃にも通所者全体で取組み、所属感の向上を図ったが清掃作業については対象者減員のため他施設へ依頼することとなり、お菓子の袋詰め、日用品の包装に関してもノルマ・期日の短さによる繁忙と、希望者が減員したため作業を中止することとなった。

② 生活支援活動

(1) レクリエーション活動を通じて調理実習、外出活動を行ってきた。

③ 個別処遇関係

(1) 受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 特になし

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	16	釣り	
5	14	調理実習（クレープ・わらび餅） スポーツレクリエーション	
6	12 17	スポーツレクリエーション 絵画鑑賞（田辺市美術館） 絵画鑑賞（中辺路美術館）	
7	21	スポーツレクリエーション 絵画鑑賞（田辺市美術館）	

8		スポーツレクリエーション	
9		スポーツレクリエーション	
10	28	スポーツレクリエーション 絵画鑑賞（中辺路美術館）	
11		スポーツレクリエーション	
12	4 15	調理実習（餅つき） スポーツレクリエーション 調理実習（餅つき）	
1		スポーツレクリエーション	
2		スポーツレクリエーション	
3	4	茶話会 スポーツレクリエーション	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
定員	令和2年4月 10人	令和3年3月 10人
実利用者数	令和2年4月 14人	令和3年3月 15人
1日平均利用者数	令和2年4月 10.8人	令和3年3月 8.2人
職員常勤換算配置数	令和2年4月 2人	令和3年3月 2人
年間稼働日数	総稼働日数 240日	休日開所日数 0日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職関係	106,210
	清掃	25,325
	職場実習	215,051
		計 346,586円
工賃実績 （一人当たり）	当初目標 なし	実績 月額 2,406円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	10.8	11.3	10.6	11.0	11.5	7.0	7.0	6.9	10.2	9.8	10.0	8.2
開所日数	21	18	22	21	17	20	22	19	20	19	18	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	6	2	0	1	1	11
女	0	1	1	2	0	0	4
計	1	7	3	2	1	1	15

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	6名
身体障害	0名
手帳未取得	1名
その他	0名

【共同生活援助（外部サービス利用型）】

令和2年度 サンヒルズ事業報告（案）

1. 運営状況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）・浜市社宅（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

① コロナ禍での利用者の動向

4月新規利用者の職場で陽性者が出ることになった。幸い濃厚接触者に該当せず、自宅待機のみとなった。法人からの通達を踏まえ、職員・利用者ともに感染予防に努めるよう指導を行ってきた。ほとんどの利用者はコロナ禍での生活をうまく過ごせていたが、一部の利用者は理解不足から外出を頻繁に行い再三の注意を行うこととなった。結局、指導されることに不満をもった利用者は自己退所となる。活動制限を行うものの、ギリギリの線での活動を行う当事者もいた。

② みなべ鹿島ホームの賃貸契約について

前年度案件であった移転について、大家より資産整理のための売却希望相談を受ける。契約書に基づき今後はお互いに売却目途が立った場合と、移転先が確定した際には6カ月前の契約解除を行うこととなる。

③ 入所・退所者の内容

入所者3名。学卒実家遠方による利用。家族不和による利用。保護者高齢による利用。
退所者3名。自主退所2名。「なないろ」への転居1名。

④ その他

友人との金銭トラブルあり。本人が解決するために家族へ虚偽の相談を行い、こちらへ連絡が入る。当初「友人」との面会のため世話人・就業センター職員の同行を複数日行う（虚偽のため会えず）。最終的には辻褄の合わない言動に対して父親が問いかけ、虚偽と判明。別の友人（家族が付合いを拒否する知人）とのトラブルとなっており、後日に家族と友人で金銭解決となる。

高齢化問題・利用者の健康問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 世話人の利用者実習先・就職先への訪問支援。

② 生活支援活動

(1) やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

(2) 生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事・買い物 他）

(3) 医療同行（精神科通院同行、その他の医療機関への同行）

③ 個別処遇関係

(1) 就職相談、定着相談、金銭管理、個別の悩み相談 他

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし（各ホームで町内会加入）

4. その他の活動

5. 行事報告

今年度はコロナ禍の影響により予定していた行事は未実施。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【共同生活援助（外部サービス利用型）】	
	令和2年4月	令和3年3月
定員	30人	30人
実利用者数	30人	29人
1日平均利用者数	28.2人	28.5人
職員常勤換算配置数	7.6人	7.6人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	28.2	27.6	28.4	27.6	27.4	28.2	28.5	27.4	27.6	26.7	28.7	28.5
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	7	2	3	6	4	23
女	0	3	0	3	0	0	6
計	1	10	2	6	6	4	29

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	12名
知的障害	17名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 古道ヶ丘 事業報告（案）

1. 運営状況

保養所事業

・コロナ禍の影響を受けて 4 月、5 月は営業を停止した。7 月、8 月は GOTO トラベルなどの制度を使いながら集客を試みたが例年のようにはいかなかった。その後も状況は改善せず今年度の保養所事業の収入は過去最低となった。

福祉事業

・介護施設へ入所が 1 名、実家へ帰りたいという理由で退所 1 名、お亡くなりになった方が 1 名で計 3 名の方が退所となり、新規利用者もなかったため 3 名減の現在の登録者数は 22 名となった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 田辺市委託事業

i バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃を行った）

お客さんの数が少なく清掃の数も少なかった。

ii 施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）

iii ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

鳥や獣害によりほとんど収穫できなかった。

(2) 授産事業

i 去年度に引き続き施設内周辺以外の草刈を行った。

県からの草刈り作業も行った。来年度も引き続きお願いしたいとの打診もあった。

ii 内職作業 かげろうの箱折りと新しい内職（ダイソー）作業を増やした。

かげろう内職の注文が少なかった。原因：コロナ禍の影響で観光客が減ったため。

② 生活支援活動

(1)

i 年 1 回の健康診断を実施した。

ii 防災計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。

iii 利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③ 個別処遇関係

(1)

i 個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。

ii 高齢化にともない足の不自由な利用者が増えてきている。以前と同じメニューの作業にも参加しにくくなってきている。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

- i 中辺路町小学校 4 年生のみなさんが来所し、感染予防対策をとりながら施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ii 毎年ボランティアで施設作業に参加してくれている中辺路中学校の生徒の皆さんはコロナの影響のため今回は参加はなかった。
- iii 町民運動会やバザーなどは軒並み中止となり参加することができなかった。

4. その他の活動

(1)

- i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	防災訓練	
10月	おつかれさま会	
11月		
12月	クリスマス会	
1月		
2月	防災訓練	
3月	班別レク	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
	令和 2 年 4 月	令和 3 年 3 月
定員	30 人	30 人
実利用者数	25 人	23 人
1 日平均利用者数	令和 2 年 4 月	令和 3 年 3 月

	22人	20人
職員常勤換算配置数	令和2年4月 5.6人	令和3年3月 4.6人
年間稼働日数	総稼働日数 244日	休日開所日数 3日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	1,150,000
	喫茶	612,710
	内職、古紙・アルミ缶など	1,232,098
		計 2,994,808円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000円	実績 月額 8,710円

② 利用実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	21.9	20.2	21.1	18.5	16	17.8	19.6	19.4	20.4	20.1	20.9	20.8
開所日数	21	20	22	19	22	20	22	20	20	19	18	21

③ 利用者の性別・年齢層(令和3年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	1	2	3	2	10
女	0	0	3	1	4	4	12
計	0	2	4	3	7	6	22

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	9名
知的障害	10名
身体障害	2名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 本宮くまのこ作業所事業報告（案）

1. 運営状況

広報活動や地域交流に継続して取り組んできたことにより、事業所の運営に理解・協力してくれる地域住民が増えてきている。特に古紙回収やアルミ缶回収に対しての取り組みにはたくさんの人に協力してもらえた。休日開所については例年同様に毎月開催することができなかつたため参加者が比較的多い内容に絞って実施することとした。また様々な事情を抱えている利用者があり、送迎体制や各自の予定に合わせて利用時間を調整することで通所しやすい環境づくりにも努めた。調子を崩し作業所の通所が難しくなった利用者に対しては、定期的な訪問を実施することで再び通所できるようになった。授産事業においては、箱折り作業、ゲストハウス清掃、自主製品、バザー収益で減収があったが、海外向け商品の梱包作業や備長炭のパッキング作業を増やすことができたため昨年度と同様の収益となった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 野外清掃活動

ゲストハウス清掃作業が新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、他の 3ヶ所については前年同様実施できた。川湯キャンプ場は令和 3 年度より指定管理者の変更があるが継続して作業が実施できることとなっている。

(2) 古紙回収・アルミ缶回収

週 1 回本宮の回収拠点 8ヶ所のアルミ缶回収を実施。

熊野鼓動・芝サッシ店・本宮社協より古紙とアルミ缶の提供。

地域住民による持ち込み。

(3) 自販機事業

本宮行政局と本宮社協の 2ヶ所の自動販売機での販売・補充・点検。

(4) 内職作業

i 箱折り作業

古道ヶ丘で実施している「かげろう」の箱折り作業の一部を請け負っている。

新型コロナウイルスの影響により前年度より減収。

ii 海外向け商品の梱包作業

海外向け商品のバーコード貼付け作業や梱包作業を請け負っている。
作業の量や商品の種類が徐々に増えてきている。

iii 備長炭のパッキング作業

本宮町内の製炭業者より浄水用備長炭や燃料用備長炭のパッキング作業を請け負っている。

iv マコモ茶の裁断作業

本宮町内のマコモ栽培農家よりマコモ茶の裁断作業を請け負っている。

(5) 自主製品（アクリルたわし）

本宮町内の3ヶ所の店舗で販売。コロナの影響で観光客が減少しており販売数も減少。

② 生活支援活動

- (1) 年1回の健康診断の実施。
- (2) 本宮町内での週3回の買い物支援の実施。新宮市内へ月1回の買い物支援の実施。
- (3) 防災計画に基づき年2回の防災訓練実施。
- (4) 季節ごとのレクリエーションの企画及び実施。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別アセスメントを行い、個別支援計画に基づき支援を実施。
- (2) 体重コントロールが困難な利用者向けに作業前のウォーキングを実施。
- (3) 精神的に調子を崩した利用者に対しての定期的な家庭訪問を実施。
- (4) 諸事情により利用時間がずれる利用者に対しての送迎時間や利用時間の調整。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 本宮女性会との本宮大社近くの花壇の花植え活動（年2回）
- (2) 本宮ゆる体操部会

4. その他の活動

- (1) 本宮地域に事業所活動を周知するため、月1回「くまのこだより」を発行。
- (2) 本宮地区のケア会議の参加。（本宮町内の他サービス事業所との意見交換等）

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	3	花見レク	本宮町七越峠を散策
5	23	調理実習	シチュー・サンドイッチ
7	10	花植え	本宮女性会と合同で実施
11	14	BBQレク	作業所敷地内で実施
11	26	ソフトボール紅白戦	古道ヶ丘と実施
12	25	花植え	本宮女性会と合同で実施
12	25	クリスマス会	作業所内で実施

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和2年4月 10人	令和3年3月 10人
実利用者数	令和2年4月 13人	令和3年3月 12人
1日平均利用者数	令和2年4月 9.1人	令和3年3月 9.5人
職員常勤換算配置数	令和2年4月 2.87人	令和3年3月 2.87人
年間稼働日数	総稼働日数 247日	休日開所日数 4日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	604,060円
	受託作業(清掃)	300,000円
	内職作業(箱折り)	151,040円
	内職作業(箱折り以外)	433,333円
	アルミ缶・古紙回収	108,265円
	自主製品他	45,050円
	計	1,641,748円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 7,200円	実績 月額 7,083円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	9.1	8.5	9.7	9.3	8.1	9.2	9.3	9.5	9	9.4	9.5	9.5
開所日数	22	21	22	19	20	21	22	20	20	19	18	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	0	2	1	2	2	7
計	0	2	2	2	2	4	12

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	6名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【共同生活援助（介護サービス包括型）】

令和2年度 こどうの家・第2こどうの家事業報告（案）

1. 運営状況

退所者が3名。一人は老人ホームへの移行、その他2人は個々の都合によりホーム継続とはならなかった。現在の空き状況は女性ホーム2名、男性ホーム2名となっている。

新規利用者の調整も行っており、県外からの利用希望もあるがコロナが蔓延している状況においてはまだホームの体験利用の調整もできていない現状である。

2. 事業報告

① 生活支援活動

(1)

- i 給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食：月火木金土曜日
株）南陽食品との契約を継続し、食事提供を行った。
- ii 防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- iii 掃除や洗濯など日常生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- iv 病院への同行受診の実施を行った。
- v 紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助を行った。
- vi 自治会を毎月定期的実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援を行った。

③ 個別処遇関係

(1)

- i 日々の生活費の使い方などの助言や管理支援を行った。
- ii 服薬についての助言や管理の支援を行った。
- iii 個別支援計画を作成し利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

- i 町内会に加入している

4. その他の活動

(1)

- i 新型コロナウイルス対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		
5月		
6月		
7月	外食・焼肉	
8月		
9月	ドライブ	
10月	防災訓練	
11月	外食・スシロー	
12月		
1月		
2月		
3月	防災訓練	

6. 数値実績

① 施設概要

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	2年4月	3年3月	2年4月	3年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	5人	3人	5人	4人
職員常勤換算配置数	3.79人	3.79人	3.79人	3.79人
年度中の入退所	入所 退所	人 1人	入所 退所	人 2人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	1人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	新宮市	人	新宮市	1人
	その他	人	その他	1人

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	9.9	9.9	9.4	8.7	8.3	8.3	8.6	8.7	7.7	7.6	7.7	7.5
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	0	1	1	0	3
女	0	0	1	1	2	0	4
計	0	1	1	2	3	0	7

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	4名
知的障害	3名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 龍の里作業所事業報告(案)

1. 運営概況

令和 2 年度は当初から新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、一時的に作業時間の短縮などの対処を行ったが、受託作業の供給も安定し始め、作業面においては減収もなく、大きな変化はみられなかった。しかし、マスク着用義務や給食時の黙食などの感染症対策に追われると同時にレクリエーション活動や地域イベントが大幅に縮小され、非常に世知辛い一年となった。

そのような状況下ではあったが、街中への買い物支援や県内での日帰りバス旅行の実施、地元でのボランティア事業の開催など不十分ながら利用者の満足を得られる支援に努めた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 農作業…季節の野菜と自然薯を栽培するが、自然薯が不作に終わった。

(2) 自主製品…マスク不足によりマスクの製造販売を行った。

よもぎの葉は前年より増産し、不足分を解消した。

焼き菓子 は好調で納品先も増えている。

(3) 地域での軽作業…便利屋作業は高齢者宅の草刈り、清掃を行った。

アルミ缶回収は地域で定着している。

(4) 受託作業…途切れることなく順調に取り組むことができた。

(5) 事業所実習…龍神マッシュの実習は 1 名増えた。

(6) 就労…1 名が地元宿泊施設で正式雇用となった

平均工賃の推移 (月額)

28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
8,314 円	8,683 円	11,461 円	10,869 円	11,628 円

② 生活支援活動

(1) 日常的な生活課題や金銭管理などの相談は社会福祉協議会と連携し、権利擁護事業や訪問支援など制度を活用し、支援を行った。

(2) 健康面においては 40 歳以上の利用者に詳細な検査項目がある田辺市の特定健診とがん検診、39 歳以下の利用者にはまゆう病院での健診を実施した。

必要に応じて栄養士や保健師による特定保健指導で生活習慣病予防対策を行った。

(3) 感染症予防のため施設内の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、助成金等の活用でエアコン、空気清浄機、消毒液、マスク等の備品購入を行った。

③ 個別処遇関係

個別支援計画とサービス等利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

④ 余暇活動支援

感染症予防の観点からほとんどの予定を変更して、利用者の生活支援のため市内スーパー等への買い物に切り替えた。一泊旅行は感染症者が減少した時期を見計らって比較的安全な県南部の日帰り旅行を実施することでレクリエーションの機会を設けた。

3. 地域交流活動

例年実施されている地域交流イベントはすべて中止となり、授産科目の「便利屋」での高齢者宅の請負作業や「花いっぱい運動」による地域住民団体との協働事業による交流活動を実施した。

4. その他の活動

避難訓練（年二回）を実施するとともに3月には水消火器による消火訓練を行った。
健康診断の実施。（龍神村中央診療所、大嶋医院、はまゆう病院）

5. 行事報告

月	行事等	備考
4月		
5月	お楽しみ弁当	
6月	健康診断（40歳以上）	龍神村中央診療所 大嶋医院
7月	買い物レク	パピリオンシティ
8月	大掃除	
9月	買い物レク	パピリオンシティ
10月	サーカス鑑賞(印南町)、インフルエンザ予防接種、 避難訓練	
11月	日帰り旅行（串本方面）、木工教室(ボランティア事業)	
12月	大掃除、健康診断（39歳以下）、工作、お楽しみ弁当	はまゆう病院
1月	買い物レク	パピリオンシティ
2月	買い物レク（みなべ）	コーナン、 バリューハウス
3月	避難訓練、買い物レク	パピリオンシティ

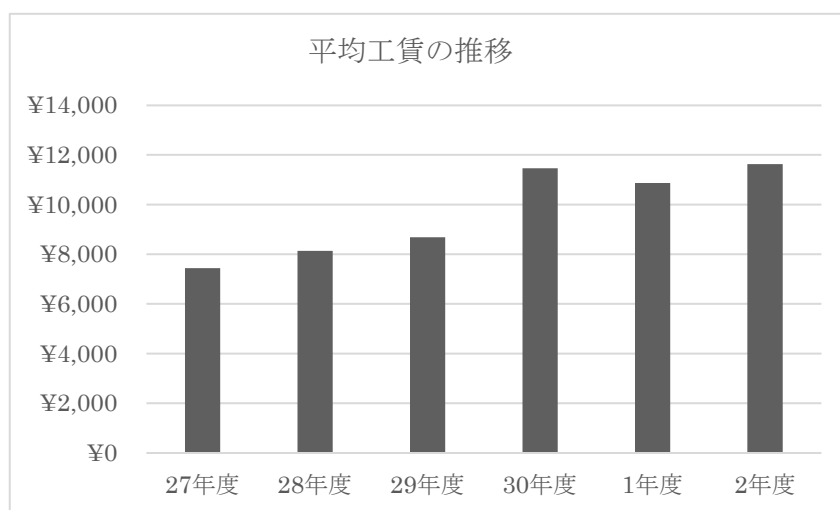
6. 数値実績

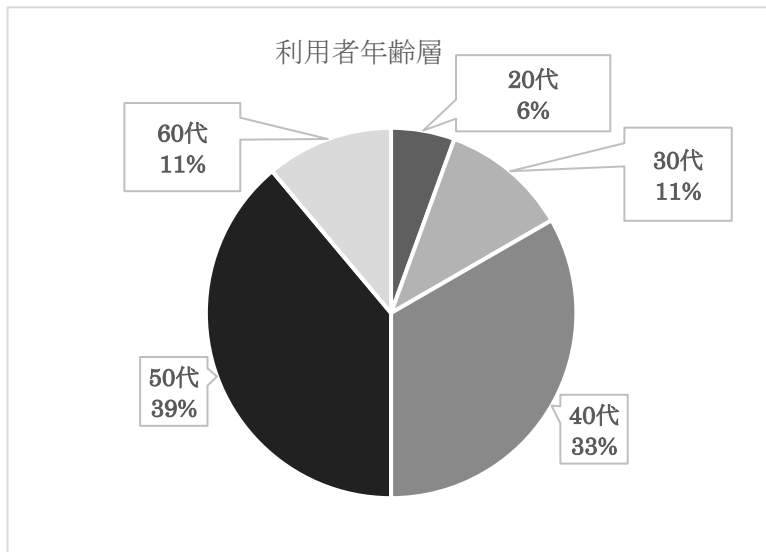
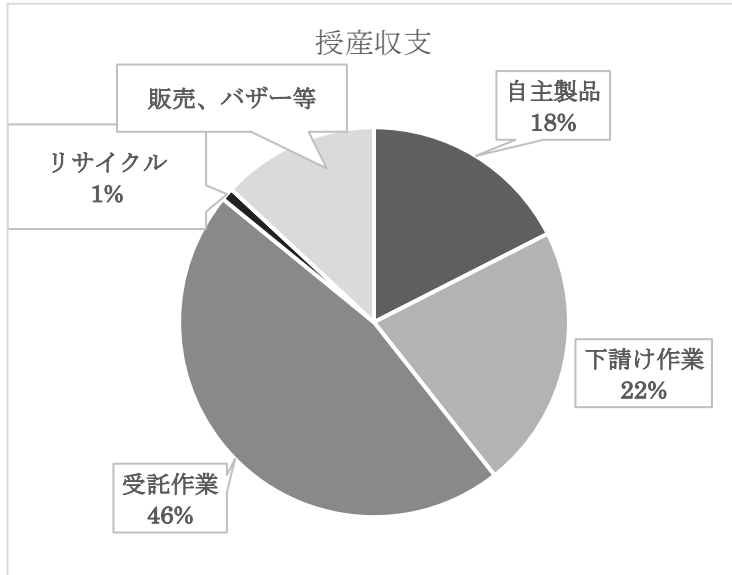
種別	就労継続支援B型		
定員	2年4月 20人	3年3月 20人	
実利用者数	2年4月 20人	3年3月 18人	
1日平均利用者数	2年4月 16.1人	3年3月 16.2人	
職員常勤換算配置数	2年4月 5.4人	3年3月 5.4人	
年間稼働日数	241日	241日	
授産科目及 び授産収入	科目		収入(円)
	自主製品	お菓子	350,592
		龍神杉のコースター	32,777
		よもぎの葉	134,078
		アクリルたわし	30,597
		農作業	71,772
		マスク	96,155
		雑巾	400
	小計		716,371
	下請け作業	ねじ袋詰め	123,330
		亀井商店	512,196
		椎茸シール貼り	257,099
		箱折り	3,200
	小計		895,825
	受託作業	龍神マッシュ実習	380,000
		便利屋	263,150
		花いっぱい運動	1,260,000
	小計		1,903,150
	リサイクル	アルミ缶回収	40,920
		古着回収	1,658
小計		42,578	

	販売、バザー 等	そうめん、うどん販売	199,050
		チョコレート販売	287,146
		バザー物品	49,010
	小 計		535,206
	総 計		4,093,130
工賃実績(一人当たり)		当初目標 月額 14,518 円	実績 月額 11,628 円

7. 利用者の年齢層

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	0	3	3	1	7
女	0	1	2	3	4	1	11
計	0	1	2	6	7	2	18





【地域活動支援センターⅢ型】

令和2年度 かしのき事業報告（案）

1. 運営状況

令和2年5月1日より上富田町より委託を受けて運営を開始する。

運営以前より地域には障害を持たれながらも福祉サービスを受けていない方や、相談まで日中サービスの利用に至らない方々の相談を受けてきた。こういった方を主として、自宅以外の場所の提供を目標に活動を行ってきた。

開所当時より行政等から見学の相談はあったが実際には見学に至らない方々が多く、見学に来られても家族の方であったりしてすぐの利用には至らなかった。また、利用開始しても1日で通所が途絶える方、季節的な不調・服薬変更での精神的な不調などから通所が途絶える方、生活面での不具合により地域生活ができなくなった方などがおられ、安定した通所ができている方は少数である。一般就労を中断し、他施設利用までの期間を利用された方については現在B型事業所へ通所し、休日等には来所を継続されている。

当初の個別生活支援は相談のみであったが、3月に利用開始された方については、関係機関とのケース会議により「金銭管理補助」「サービス調整」「通院同行（送迎）」を行うこととなった。

平日はサロン利用、レクリエーションを中心に活動し、内容はその日来所された方々との話し合いで決めていった。その活動はフェイスブック等で広報を継続している。

2. 事業報告

① 就労支援活動

特になし

② 生活支援活動

(1) サロン・レクリエーション活動

憩いを主としての活動のため、来所者には強要せず「やりたいこと」をやってもらうこととしている。サロンでDVD鑑賞・読書、調理実習、ボードゲームなどを行い、外出時は釣り・買い物・観光地周り・スポーツを行ってきた。

(2) 給食提供

来所者のニーズにより、一番多く来所される水曜日を主に、職員が軽食を調理。費用は300円全額自己負担で行ってきた。一部の利用者は独居のため、集団での食事や普段食べていないものが食べられることについて好感を持たれている。

③ 個別処遇関係

- (1) 受診同行（送迎含む）
- (2) 金銭管理

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 特になし

4. その他の活動

5. 行事報告

当初予定していた行事には参加できず。

来所者希望にてほぼ毎日レクリエーション活動を行ってきた。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
定員	令和2年5月 10人	令和3年3月 10人
実利用者数	令和2年5月 2人	令和3年3月 4人
1日平均利用者数	令和2年5月 1.3人	令和3年3月 2.6人
職員常勤換算配置数	令和2年5月 1.3人	令和3年3月 2人
年間稼働日数	総稼働日数 219日	休日開所日数 日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数		1.3	2.0	1.8	2.6	2.3	2.1	2.2	2.6	2.9	2.3	1.7
開所日数		18	22	21	17	20	22	19	20	19	18	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和3年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	2	1	0	3
女	0	1	0	0	0	0	1
計	0	1	0	2	1	0	4

④ 障害種別（令和3年3月利用者）

障害名	利用者数
精神障害	3名
知的障害	1名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

（令和3年3月登録者9名）

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	3名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 か～む事業報告（案）

1. 運営状況

前年度の 1 日あたりの平均利用者数 13.3 人に対し、令和 2 年度は、15.7 人と前年度より 2.4 人増となった。新規利用者 3 人、退所者が 1 人で、登録者数は 2 人増となっている。退所理由としては、対人関係のしんどさから 3 ヶ月以上通所がみられず、家庭訪問をして本人、家族と話し合った結果、通所する意欲がないため、一旦退所という形をとった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 内職作業

- i 完成企画（箱折り）：主に商品券の箱折りをしていたが、新型コロナウイルスの影響で停滞する。別の作業が忙しくなったため、3月にストップする。
- ii 亀井商店（日用品の包装など）：新型コロナウイルスの影響もなく、主力として関わることができた。昨年度より収入も大幅に増加した。
- iii 南紀梅干し（梅の種抜き）：単純で分かりやすい作業なので障害が重い利用者にもできる作業であったが、参加者が少なくなり 9 月をもって終了する。
- iv 福梅本舗（梅の箱詰め・シール貼り）：地元白浜の福梅本舗から 3 月に依頼される。単価も良く、納品も近いことから今後も継続していく予定。

(2) 外作業

- i 草引き：週に 1 回の午前中の作業で、参加者を募って行っている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。収入面は変わらず。
- ii ペットボトル作業（キャップ外し、洗い、ラベルはがし）：週に 1 回の午後からの作業で、参加者を募って行っている。参加者も固定化され、仕事の段取りも早くなってきている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。
- iii 洗車：月に 1 回、参加者を募って職員、利用者の車を洗車。それ以外にも車両点検終了後、事業所の送迎車の洗車も行っている。メンバーも固定化されており、作業もスムーズに行うことができている。
- iv ATM 清掃：月 1 回の作業で、単純な清掃作業。朝礼前に行っている作業なので、時間給と手当をつけている。あまり、外の作業に参加していない利用者に声をかけて参加を促している。

(3) 給食運搬

木曜日以外の平日に行っていたが、陽だまりとの話し合いで 3 月より毎日行うことになった。

(4) ジュース販売

事業所内での販売。自販機より値段を安く設定しており、毎日の売上計算は利用者が行っている。利用者が飽きないよう、新しい商品の仕入れなどを行った。

(5) バザー活動

白浜町商工会に加入し、バザー活動ができる場所を増やして、収入を増やすつもりであったが、新型コロナウイルスの影響ですべてのイベントが中止になる。

(6) その他

そうめん、ちゃんぽん物品販売をボーナスの資金作りとして取り組み、昨年度を上回る収入を確保できた。

② 生活支援活動

(1) 年 1 回の健康診断を実施し、精密検査が必要な利用者には関係機関や家族との連携に努め、支援を行った。

(2) Dr との意思疎通が難しい方や重篤な疾患がある方の受診同行を定期的に行い、家族、関係機関と連携して支援を行った。また、精神的に安定されない方への緊急的な受診の同行も行い、関係機関、家族との連携に努めた。

(3) 新型コロナウイルスの影響で外出する機会が減り、余暇支援は、室内でできるストレッチ体操やオンライン旅行など工夫をして行った。

(4) 金銭の相談や管理、申請書類の相談や同行、身だしなみ等についての助言を行った。

(5) 生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、新型コロナウイルス感染予防対策を遵守しながら、買い物支援を継続して実施した。

③ 個別処遇関係

(1) 利用者の意向や課題を確認しながら支援計画書を作成し、定期的な見直しを行った。

(2) 通所が滞った利用者に対し、電話連絡や訪問支援を取り入れ、本人や家族の意向を伺い、意見交換を行った。

(3) 身体介護が必要な利用者が増えており、安全に配慮しながら身体介護に努めた。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 町内会主催の地域イベントが中止となり、バザーに参加できなかった。

(2) アルミ缶回収を通して、地域の方や企業に引き続き協力していただいた。

4. その他の活動

(1) 作業所で初めての保護者懇談会を企画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止

となった。

(2) 防災訓練は、9月、3月と年2回実施した。9月は、火災を想定した避難、通報訓練、水消火器を使った消化訓練を行った。3月は、地震を想定して、津波からの避難訓練を実施。防災物品の点検を利用者と一緒に行った。

(3) 休日開所を11日行った。参加者が少しでも増えるよう作業開始時間を早め、12時には家に帰れるように送迎を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	23	お菓子作り (パンケーキ)	
5	9	土曜開所 (作業)	
	14	DVD鑑賞	
	21	茶話会	
	23	土曜開所 (作業)	
	28	ストレッチ体操	
6	4	ピクニック (平草原)	
	11	買い物支援	
	25	グラウンドゴルフ	
7	2	ドライブ&外食 (勝浦)	
	11	土曜開所 (作業)	
	16	買い物支援	
	30	かき氷作り	
8	1	土曜開所 (作業)	
	6	DVD鑑賞	
	10	休日開所 (作業)	
	11	外食&買い物 (田辺)	
	27	かき氷作り	
29	土曜開所 (作業)		
9	3	DVD鑑賞	
	10	買い物支援	
	17	室内レク	
	24	ストレッチ体操	
	25	防災訓練 (避難・通報・消火器訓練)	
10	1	BBQ	
	8	室内レク	
	15	買い物支援	
	22	ゴルフ	
	29	DVD鑑賞 or 釣り	
11	5	ドライブ (紅葉)	
	7	土曜開所 (作業)	
	12	買い物支援	
	19	インフルエンザ予防接種 (三谷医院)	
	20	インフルエンザ予防接種 (三谷医院)	
24	インフルエンザ予防接種 (三谷医院)		
12	3	DVD鑑賞	
	10	買い物支援	
	15	健康診断 (はまゆう病院)	
	17	クリスマス会	
18	健康診断 (はまゆう病院)		

1	5 14 16 21 28 30	書初め&初詣 買い物支援 土曜開所（作業） DVD鑑賞 室内レク 土曜開所（作業）	
2	4 13 18 25 27	DVD鑑賞 土曜開所（作業） 買い物支援 ドライブ 土曜開所（作業 or フラワーアレンジメント）	
3	4 11 18 25	DVD鑑賞 買い物支援 オンライン旅行 防災訓練（避難訓練・防災備蓄点検） 忘年度会	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
	令和 2 年 4 月	令和 3 年 3 月
定員	20 人	20 人
実利用者数	23 人	25 人
1 日平均利用者数	15.3 人	15.2 人
職員常勤換算配置数	4.9 人	4.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 250 日	休日開所日数 11 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職作業（寛成、亀井、福梅他）	752,037
	外作業（草引き、ペットボトル、洗車他）	246,140
	給食運搬	284,980
	ジュース販売、自販機	524,751
	バザー活動	0
	その他（物品販売、便利屋作業他）	198,400
		計 2,006,308 円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 6,340 円	実績 月額 6,285 円
-----------------	--------------------	------------------

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	15.3	16.3	17.4	16.2	15.6	16.3	15.9	15.3	16.1	15.9	13.5	15.2
開所日数	21	20	22	22	20	20	22	20	20	20	20	23

③ 利用者の性別・年齢層 (令和3年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男			2	3	5	3	13
女			2	3	4	3	12
計			4	6	9	6	25

(平均年齢 51.8 歳)

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	15名
知的障害	5名
身体障害	4名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型・就労移行支援・就労定着支援】

令和 2 年度 すまいる事業報告（案）

1. 運営状況

令和 2 年度は、多機能型（就労移行支援・就労継続支援 B 型）の運営を行い、令和 2 年 5 月より新事業として就労定着支援事業を開始した。就労定着支援は、以前からすまいるのみなべ町障害者相談支援事業の一貫で行っていた事業でもあった。今年度は、4 名の利用者の支援を紀南障害者就業・生活支援センター、障害者雇用している事業所と連携し支援し就労定着に繋げた。そして、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度始めの生産活動が動かず、日中活動の内容に思案した年度であった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 就労移行支援

i 利用者状況 - 4 月からの新規利用者は、はまゆう支援学校卒業後の生徒の 2 名であった。年度始め 9 名の利用者がいたが、3 名の利用者（発達障害者・精神障害者・知的障害者）は、2 回目の就労移行支援事業を利用している利用者で、2 名は再就職を希望する方であった。退所者は、他事業所（就労継続支援 A 型）希望のため、5 月に退所され、その後、新規相談者で利用する方はいなかった。

ii 就労訓練内容 - 新型コロナウイルス感染症の感染予防の対策として、緊急事態宣言が発令され、経済の流通にも影響を及ぼし、事業所実習がなくなってしまう状況が、上半期続いた。そのため、今年度の就労訓練は、いつもより施設内作業（梅加工業等）が多くなってしまった年度であった。その内容を振り返る中で、就労意欲の意識付けを優先に支援を行っている事業だが、生活支援を優先しなければいけない利用者が今年度も多く、生活訓練に時間がかかった利用者は、就労意欲の向上を図ることができない取り組みで終わってしまった。他利用者 2 名（2 年目のサービス利用者）は、紀南障害者就業・生活支援センターと連携し、就労前実習等を行い就労に繋げる支援を行うことができた。反省点として、以前から問題である身体障害者の就労訓練内容の見直しを図り、利用者の作業内容の幅を増やす支援に繋げる予定だったが、取りこぼしに終わってしまった。今年度も、身体障害者の方に配慮した作業内容を準備する事ができず、我慢してもらったというのが実状である。

ぽのぼの工場の活動は、週 3 回のランチから週 5 日のお弁当に変更し、就労訓練を行った。始めは、作業工程が増え覚えることに時間がかかったが、毎日の積み重ねの訓練で、習得し、簡単な料理、盛り付け等ができるようになった。日替わり弁当も地域住民の方の顧客も増え、売り上げに繋げることができた。

iii 就労状況 - 今年度の利用者のうち 2 名が、以前より障害者雇用で繋がりのある事業所（梅加工業・病院内清掃）に、就職した。そして、1 名の身体障害者の方は、過去に大阪で就労経験があり、再度大阪での就労希望であったため、ハローワーク、紀南障害者就業・生活支援センターと連携し繋げる予定であった。が、新型コロナウイルス感染症の感染者増加で家族の不安も増え、利用者、支援者の感染リスクを考え、大阪に調整しに行くこともできず終わってしまった。本人の利用期間が今年度で終了のため、身体障害者に特化した就労継続支援 A 型事業所に繋ぐ支援を行った。本人の大阪へ行く希望は、まだ続いているため、今後も本人の経過を見守り、紀南障害者就業・生活支援センターと就労斡旋を行っていく予定である。

(2) 就労継続支援 B 型

i 利用者状況 - 今年度の新規利用者は、1 名であった。ここ最近の傾向として、就労継続支援 A 型を利用し、加齢（40～50 歳代）に伴う作業能力の低下、作業に集中できず被害妄想が増え、不眠症状が続き通所できず退所。その後、他サービス利用の相談で繋がってくる女性の方が増えている。他利用者も、新型コロナウイルス感染症予防のしんどさ等で体調を崩す方もなく、継続して通所の安定が図れて良かった。退所者は、69 歳で高齢者分野に 1 名移行し、54 歳で他施設利用希望もあり、同法人の事業所に繋げ、2 名の方が退所した。

ii 就労訓練内容 - 今年度の 4～6 月まで、新型コロナウイルス感染症の影響で、施設内作業の仕事がなく、創作活動等（刺繍）、施設外草抜きや駐車場の草抜き、洗車等を行い、日中のリズムを崩さない活動内容で、上半期何とか乗り切った。その後は、前年度より少ない作業内容であったが、結果としては利用者の個々の作業支援に寄り添うことができる年になった。

iii 就労状況 - 平成 29 年に就労している利用者で、半日午前勤務、午後就労継続支援 B 型サービスを利用し、約 3 年半就労定着していたが、就労先での仕事が新たに増えたことで、変更された内容の受け入れができず、新たな仕事の自己評価も低く、情緒不安定の日々が続いた。本人、家族との話し合い、何回か事業所訪問し調整も行ったが、本人の被害妄想が続くため、自己退職することになった。就労継続支援 B 型から就労を目指す利用者の方も、就労訓練実習等を紀南障害者就業・生活支援センターと連携し取り組んだが、自分で仕事を選び実習回数を減らしたりすることが頻繁になり、本人から「就職したくない」との意向で、就労に繋げる支援を一旦終了することになった。

(3) 就労定着支援

i 利用者状況 - 今年度からの新事業で、4 名の利用者の支援を行った。2 名は、令和元年度に就労（2 名とも初めての就労）した利用者、他 2 名は、令和 2 年度に就労（1 名は、初めての就労・1 名は、2 度目の就労）した利用者の支援を行った。

ii 就労定着内容一月 1 回の面談と事業所訪問を行った。面談を通しての相談内容は、生活面では、生活リズムが崩れての遅刻、普通自動車免許取得の相談と学習支援、新型コロナウイルス感染症による休業補償の勤務時間変更や休日の過ごし方、体調管理（体重管理・服薬管理）、金銭管理の相談であった。就労面は、一緒に働く従業員の方の指示の理解ができない悩み、自分の障害のことを理解して貰えないしんどさで仕事を辞めたい、パワハラ的な話を聞き、自分もパワハラされる心配等の内容であった。相談後、相談内容により、関係機関、事業所と話し合い、不安の軽減を図る支援を行い、日常生活の安定に繋がった。

(4) 障害者相談支援事業

i 相談者状況－今年度も 51 人（精神 32・知的 13・発達 3・身体 2・その他 1）で、新規相談者は、7 名であった。相談者の 6 割が、本人が高齢者、両親が高齢化してきている状況のため、年々見えない問題も多く出てきている状況が続いている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により生活困窮相談から就労相談に繋がってくる利用者が 3 名おり、精神面の不安と金銭の不安が続き、就労に繋がられないケースがあった。

ii 相談事業内容－平成 19 年度より開始した障害者相談支援事業が今年度で終了。

西牟婁圏域障害児・者相談センターにじのわに移行するため、関係機関で連携し相談者、相談内容の経過を見ながら、計画相談事業での役割分担の整理を図り、計画相談の支援

として継続していくよう進めていきたい。

(5) 計画相談事業

i 相談状況 - 平成 24 年度より事業を開始し、今年も 51 人（精神 22・知的 25・身体 2・その他 2）の計画相談を行った。新規利用者の受け入れは、今現在行っている計画相談者の支援状況の経過を見ながらの受け入れにしている。

ii 相談事業内容－本人、家族との面談を行い、福祉サービスの新規利用相談や更新、変更、終了の支援を行った。ほぼ更新している利用者が多く、終了する方は、介護保険の方へ移行される方、病状が安定せず在宅療養での生活を希望される方であった。

② 生活支援活動

(1) 健康管理 - 通所者全員に健康診断を年 1 回受けて貰い、病気の早期発見、早期治療に繋げる支援を行った。視力検査で、視力低下があるにも関わらず、眼鏡等をせず、車、原付バイク、自転車に乗る利用者があるため、眼科受診の声掛けを行い、視力低下、事故予防に繋げる支援を行った。その他は、肥満傾向の利用者は、日中活動に散歩時間を設け、体重管理の意識付けに繋げる支援を行った。そして、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底するため、マスク着用の声掛け、手洗い、アルコール、ソーシャルディスタンス、黙食を行い、感染予防

の強化に繋げた。長期休暇の際は、家での検温をして貰い、早期発見できるよう取り組んだ。

- (2) 金銭管理 - 必要な利用者には、買い物支援等を行い、本人の金銭管理できる内容把握を行った。そして、生活支援の内容として、家族にも協力して貰い、日常生活の中での共通支援として取り組み、本人ペースで買い物ができるようになってきた。
- (3) 受診同行 - 利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者には、声掛け支援（服薬の声掛け・確認）を行った。必要な際は、本人、家族と話し合い、受診同行し、主治医と情報交換、共有し支援内容の調整に繋げ、病状の安定と回復に繋げる支援を行った。1名の利用者（精神障害者）が体調を崩し家族の見守りで約1週間自宅療養し復帰したが、今は安定した通所ができています。

③ 個別処遇関係

利用者の意向を尊重し、家族の意見も交えてできるだけ目標が達成できる支援計画の作成を心がけた。自分の目標を立てづらい利用者は、家族からの聞き取りで情報共有し、本人ペースで自立していくために取り組む支援内容を一緒に考え、作成し実践していく支援を行った。50～60代の利用者は、加齢とともに日常生活の不安が多くなり、陰性症状の見守りと医療との連携での支援が必要になってきている。20～40代の利用者で共通する生活支援は、親から離れての生活体験（GH短期入所、体験利用）を行い、自分の将来に向けての意識付けを図ることであった。福祉サービス内容の情報提供を行い見学に繋げるが、本人、家族の意識付けに繋がらず、現状維持で終わっている。継続して必要な支援内容として、助言を進めていきたい。

3. 地域交流・地域貢献活動

- ①地域住民の方が継続して、古着、漆器類、羽毛布団回収に協力してくれているため、授産活動の収益にも繋がっている。
- ②ぽのぽの工房店内での展示、利用者の作品展示会開催、販売。
小物等の無料お持ち帰り置き場を設け、ゴミ減量化に繋げる取り組み。

4. その他の活動

- (1) 非常災害に備えるための、防災学習、訓練の実地。
9月10日の避難訓練後に、DVD鑑賞（平成23年3月11日の東日本震災）し、忘れてはいけない災害としての学習会を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4			緊急事態宣言発令のため、中止

5			緊急事態宣言発令のため、中止
6			梅収穫作業繁忙期のため、余暇活動自粛
7			梅収穫作業繁忙期のため、余暇活動自粛
8	8/21	・納涼会縁日 (すまいるにて)	
9	9/10 9/15	・避難訓練 (1回目) ・お出かけレク (パビリオンシティー) ・散歩レク (新庄公園)	
10	10/8 10/30	・さくらサーカス鑑賞 (印南公演) ・すまいる運動会 (共和球場)	
11	11/5	・紅葉狩り (高野山)	
12	12/19	・クリスマス会 (みなべ町中央公民館) イラストゲーム・カードゲーム クリスマスツリー作り 昼食会 (菊水弁当注文) 茶話会 (みさき堂ケーキ注文)	
1			
2	2/2 2/10 2/27	・豆まき・ゲーム等 (はあと館) ・スポレク (大屋体育館) ・ボランティア事業参加 フラワーアレンジメント (紀南文化会館) ・観梅 (南部梅林)	
3	3/11 3/17 3/26 3/30	・避難訓練 (2回目) ・いちご狩り (リコリーナ) ・会食会 (菊水弁当注文) ・花見・球技大会 (清川球場) 屋台 (たこ焼き) 調理実習 (カレーライス)	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労移行支援】		【就労継続支援 B 型】	
	令和 2 年 4 月	令和 3 年 3 月	令和 2 年 4 月	令和 3 年 3 月
定員	20 人	20 人	7 人	6 人
実利用者数	9 人	5 人	27 人	26 人
1 日平均利用者数	7.8 人	5 人	19.8 人	21.4 人
職員常勤換算配置数	3.4 人	3.4 人	6.3 人	6.3 人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日	総稼働日数	休日開所日

	249日	5日	244日	2日
授産科目及び授産収入	科目		収入(円)	
	自主製品 (ぼの)	912,927	自主製品 (ぼの)	2,468,283
	バザー	3,254	バザー	8,797
	施設内	759,198	施設内	2,052,646
	施設外	548,038	施設外	1,481,735
	受託作業	209,267	受託作業	565,797
	計	2,432,684円	計	6,577,258 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額25,000円	実績 25,892円	当初目標 月額18,000円	実績 19,483円

② 利用実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均 利用者数	27.5	27.8	28.1	27.6	24.2	27	26.6	25.2	25.2	25.6	25.4	26.3
開所日数	21	18	22	21	22	20	22	19	23	18	20	23

③ 利用者の性別・年齢層(令和3年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	8	4	2	2	2	18
女	1	7	2	1	1	1	13
計	1	15	6	3	3	3	31

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	10名
知的障害	19名
身体障害	1名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 2 年度 いなづみ作業所事業報告（案）

1. 運営状況

新型コロナウイルスの影響は比較的少なく、旅行・レクリエーション以外の活動は、ほぼ例年通り行えた。

新規利用者 1 名に対し、死亡 1 名、デイケアへの完全移行者 1 名、部分的移行者 1 名、退所者 1 名、他法人への移籍 1 名と、利用者数の減少が目立ってきている。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 便利屋事業

i 草刈り・草引き作業

草刈機を回せるメンバーが大幅に減っており、今まで一日で終わっていた現場が二日かかるようになり、需要はあるのに受けきれなくなっている。

ii 洗車

高齢化による視力低下で汚れを視認できないメンバーが増え、職員のチェック後の再作業が多くなっている。

iii 熊野古道の整備

熊野古道の砂利や石、落ち葉の撤去作業を町から委託された。完全な土木工事で、B 型作業所が受けるべき仕事ではなかったと反省。

(2) 受託作業

i 太陽光発電所の委託管理作業

敷地内の草引きが主な作業なので、ほとんどのメンバーが参加可能である。パワコンのネットワーク設計図の作成や、故障したネットワークユニットの交換作業の依頼に関しては、別料金を設定した。

ii 洗濯作業

周参見病院が 3 階の病棟を閉鎖し、病床数を大幅に減らしたため、受注数が激減した。それを補うために、現在は社協のデイケア利用者の洗濯も 2 名分受注している。

(3) リサイクル作業

アルミ缶とスチール缶に仕分けし、中のゴミを除去しているが、屈んだ状態で長時間作業するため、膝や腰の痛いメンバーは参加できない場合がある。対策を考

えていきたい。

(4) バザー活動

毎年、主要な収入源となっているが、今年度に関しては全く実施できなかった。

(5) 自主製品製造・販売

i EM ぼかし

原材料の魚粉の価格高騰で、手間に見合う収入が得られ難くなっている。また、一般の方からの米ぬかの需要も多くなっており、JA からの入手が難しくなっている。

ii リサイクル石鹼

危険な薬品（苛性ソーダ）を使用するため利用者の参加が難しく、あまり製造できていない。

iii 野菜

あまり外作業にかかわれていないメンバーが参加できる作業として重宝している。特に収穫は喜んで参加してくれる。販路の確保が今後の課題。

② 生活支援活動

- (1) 週に一度、自力での買い物が困難なメンバーと一緒に、近くのオークワで買い物支援を行った。土日の食材や嗜好品、生活用品が主な購入物。
- (2) マイナンバーカードのネットでの申請手続きを支援。
- (3) すさみ町が行う健康診断への集団検診に同行し、日頃の健康状態を伝えた。対象外の利用者は、白浜はまゆう病院で健康診断を受けてもらった。
- (4) すさみ町では販売していない生活用品を購入するために、田辺市への買い物レクを行った。服や靴、工具などを中心に購入されていた。
- (5) すさみ町社協が提供している配食弁当が、高齢者用のサービスであることから障害者への提供ができないとの指摘を受け、いなづみの利用者4名の夕食の確保が難しくなった。ヘルパーの食事支援も利用できず、仕方なくいなづみで昼食として取っている弁当を、おかずを変えて夕食用にして手配した。

③ 個別処遇関係

週に一度、全利用者一人一人についての様子を話し合い、職員間で情報を共有しつつ、支援の方向の統一を図った。

また、個別支援計画作成のための支援会議も別に設け、担当だけでなく職員全員で取り組んだ。

3. 地域交流・地域貢献活動

新型コロナウイルスの影響により、今年度はあまり交流できていないが、ゲートボールクラブの皆さんにゲートボールを教えてもらいながら活動に参加させて頂いた。

4. その他の活動

(1) すさみ町委託相談事業

26人の相談者から、753件の相談を受けた。うち297件は「健康・医療に関する支援」であり、相談者の多くが、医療への関りに支援を求めている。

尚、いなづみ作業所がこの事業を委託されるのは令和2年度で最後であり、令和3年度からは「西牟婁圏域障害児・者相談センターにじのわ」に委託されることになった。

(2) 災害避難訓練

津波からの避難訓練は、作業所から避難所までを実際に移動し、しっかり避難できる利用者と時間がかかり過ぎる利用者の確認を行った。

時間がかかる利用者には、最寄の住宅の4階に避難させてもらうようにと確認をした。また、火災時の対応訓練も行い、利用者は屋外への避難、職員は通報・初期消火等のシミュレーションをした。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	8	ゲートボール	すさみゲートボールクラブの皆さんと
5	5	調理実習	カレーをみんなで調理
6	22	レクリエーション	串本方面ドライブ&ランチ
7	24	レクリエーション	田辺市内ショッピング&ランチ
8	18	レクリエーション	駅カフェ体験
9	9	レクリエーション	バッティングセンター
10	9	レクリエーション	サーカス鑑賞
11	16	防災訓練	津波避難訓練
12	25	レクリエーション	クリスマス会
1	5	初詣	
2	24	防災訓練	火災避難・消火訓練
3	22	レクリエーション	古道ヶ丘でBBQ

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 2 年 4 月 20 人	令和 3 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 2 年 4 月 24 人	令和 3 年 3 月 21 人
1 日平均利用者数	令和 2 年 4 月 18.7 人	令和 3 年 3 月 17.0 人
職員常勤換算配置数	令和 2 年 4 月 2.5 人	令和 3 年 3 月 2.3 人
年間稼働日数	総稼働日数 245 日	休日開所日数 5 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	自主製品売上	175,100
	物品販売売上	269,500
	バザー収入	0
	リサイクル事業収入	207,245
	便利屋売上	2,977,915
	受託作業収入	2,860,530
		計 6,490,290 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 25,000 円	実績 月額 21,404 円

② 利用実績 (月別)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	18.7	17	17.5	18.5	17.5	19.2	18.4	18.2	17.3	17	16.7	17
開所日数	21	19	22	22	20	20	22	19	21	18	18	23

③ 利用者の性別・年齢層 (令和 3 年 3 月末時点)

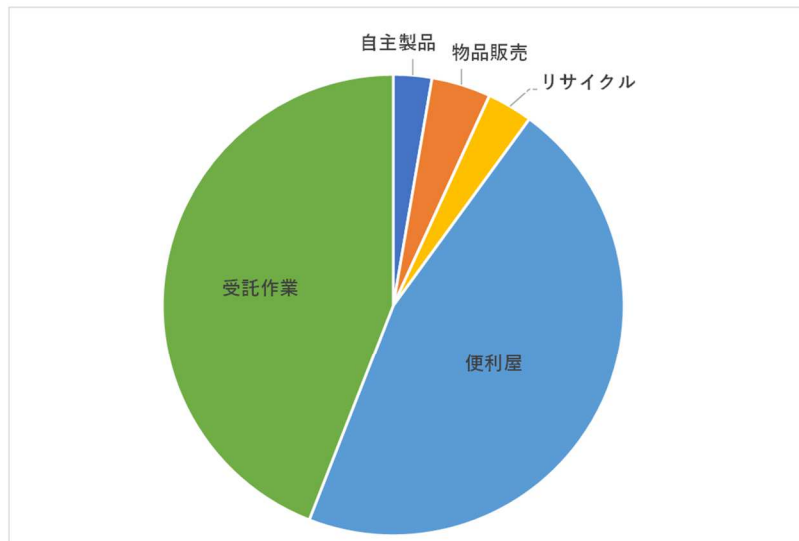
性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	1	2	2	1	4	7	17
女	0	0	0	2	0	2	4
計	1	2	2	3	4	9	21

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	8名
身体障害	5名
手帳未取得	1名
その他	0名

<参考資料>

令和2年度 いなづみ作業所 就労支援事業年間売上集計表



自主製品	野菜	61,840	2.7%
	肥料	106,460	
	石けん	6,800	
	小計	175,100	
物品販売	ジュース・ゆで卵売上	269,500	4.2%
	その他	0	
	小計	269,500	
バザー		0	0.0%
リサイクル	古紙回収	137,270	3.2%
	アルミ	69,975	
	小計	207,245	
便利屋	墓掃除	109,000	45.9%
	草刈	1,996,480	
	洗車	387,100	
	その他	485,335	
	小計	2,977,915	
受託作業	すさみ町(若者広場他)	507,000	44.1%
	太陽光発電所管理	1,810,600	
	洗濯	432,900	
	その他	110,030	
	小計	2,860,530	
合計		6,490,290	100.0%